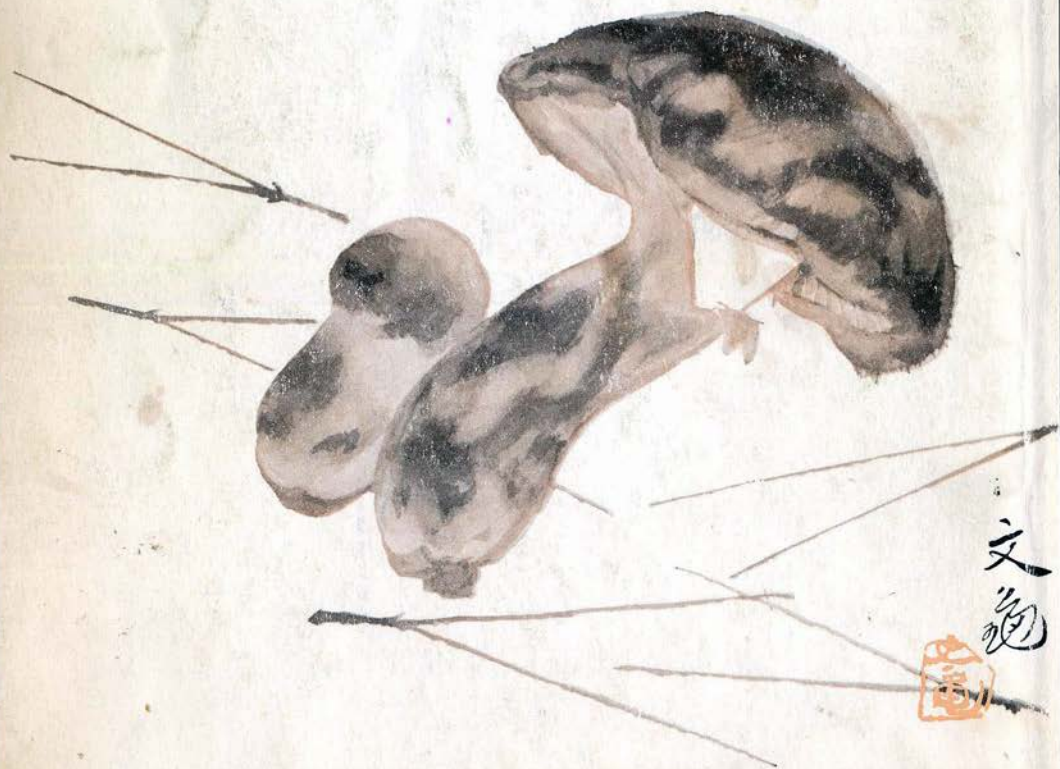


関東氷上郷友会

昭和四十七年一月 第3号

山
々
々



渡辺紙工業株式会社

取締役会長 渡辺泰造 取締役社長 渡辺金三

本 社 大阪市城東区蒲生町5丁目53番地

本社事務所 大阪市北区芝田町112番地<北梅田ビル>

Tel 372-6814

東京支店 工場 東京都足立区中央本町5丁目22番12号

Tel 887-6711~5

東京支店営業所 東京都台東区柳橋2丁目15番4号<関根ビル>

Tel 861-2331~6

名古屋支店工場 名古屋市西区又穂町3丁目13番地

Tel 521-8111~5

大阪支店 工場 大阪市城東区蒲生町5丁目53番地

Tel 939-1281~6

九州支店 工場 福岡市堅粕日ノ出町4丁目1番地

Tel 41-4237~9

渡辺製袋株式会社

取締役会長 渡辺泰造 取締役社長 渡辺金三

本 社 大阪市城東区蒲生町5丁目53番地

東京支店 東京都台東区柳橋2丁目15番4号<関根ビル>

Tel (861) 2331~6

大阪支店 大阪市城東区蒲生町5丁目53番地

Tel (939) 1281~6

藤岡工場 栃木県下都賀郡藤岡町内町4938番地

Tel (028262) 3321~2

兵庫工場 兵庫県加古郡稲美町蛸草1438-1番地

Tel (0794291) 257, 401

山
ざ
る

第
3
号

丹波路の

わがふるさととは

なつかしく

忘しがたなく

たくましく

わが生きがいを

かきたてる

今日も

明日も

総合建築

設計  施工

株式会社 長富工務店

代表取締役 長富千代一（大路出身）

本社 東京都荒川区南千住5-9-8 電話（802）3721～4番

東京営業所 東京都足立区青井町2-24-7 電話（840）4484～7番

船橋営業所 船橋市海神3-16-1 電話（0474）（31）7177～9

山ざる 第3号 目次

丹波路の未来……………	中尾久雄……………	4
"ニュー丹波"への夢……………	有田喜一……………	6
郷土と企業に奉仕……………	足立三治……………	7
関東氷上郷友会新役員……………		8
郷友会・総会報告……………		10
随想・随感……………		
古里の風物……………	荻野完二……………	12
ふるさとの味……………	足立順治……………	13
近 詠……………	須原松柏……………	13
銀の笛……………	深尾須磨子……………	14
怪我と酒……………	余田貞雄……………	14
育くまれたふるさと……………	植村章子……………	15
平安な日々……………	野村千里……………	15
気楽な夫婦生活……………	堀川萬治……………	16
老人問題を考える……………	木村つた江……………	16
いま一つの"ふるさと"……………	前田和一……………	17
私の丹波……………	細見綾子……………	20

お便り	21
訃報	23
敵かに葬儀・石橋翁	23
石橋さんの丹波構想	24
故石橋会長を憶いて	25
兄佐々井信太郎の生涯	25
佐々井一晁	25
佐々井博士の葬儀	27
喜寿・耆寿・米寿の先輩たち	27
日展十四回の栄光―常岡画伯の『白い嶺』―	28
同好会ニュース	
ゴルフの会報告	29
伴仲信次	29
氷上碁会報告	30
松山幸逸	30
四十六年度会計報告	31
関東氷上郷友会の沿革	33
関東氷上郷友会々々則	34
関東氷上郷友会々々員名簿	35

丹波路の未来

——40万田園都市をめざす画期的構想——

中 尾 久 雄

都内でも青垣町ともなると冬の訪れがはやくて、私が先日はいじめて関東氷上郷友会に出席させていただいた頃は、高源寺の楓がきれいに色づき、四国の山ひだは、ほんとうに錦繡を織りなすという形容がびつたりな風情でした。殺風景な新幹線車窓の眺めとひきくらべて、丹波の自然の良さをあらためて認識したものでしたが、その紅葉がわくら葉に変わって、栗鹿の峰に、ぼつぼつ初雪のたよりをきく師走の頃ともなれば、きびしい冬將軍の、産業や、生活面への制約を思っ、いささか憂うつに舐ばまれそうな昨今のたたずまいです。もうすこし降るなら降るで、一メートルにも二メートルにも積ってくれるようなら、スキーだとかスケートだとか、時流ののった目玉開発ができるのだけれど、いまのところでは、スキーを屋根に積んで、陸続と走る車の列は遠坂峠をこえて神鍋や鉢高原をめざすものばかりで、排気ガスを残していくだけ……これを丹波にとどめることができたかと、切齒扼腕といったところです。

○
もともと、こんなに冬の条件がわるいのは但馬と腹背の神楽谷、遠坂谷だけであって、

氷上郡全体を通じてみると、阪神の後背地としての地理的条件や、気候の条件は、むしろひじょうに恵まれているかも知れないし、損なわれぬ自然環境の如きは、今日、まことに貴重とすらいえるのではないかと思います。それやこれやで、こんな青垣の辺鄙でも、けっこう開発のいとぐちはあるものです。かつては黒毛和牛、養蚕、炭焼きといった副業をもつのが農家の定型でありましたが、ブロイラー、採卵鶏、豚、乳牛など、多頭羽畜産にかわつたのもかなり古く、最近では作目面でも、ナス、キュウリ、イチゴ、花木など近郊型といわれるものが、年々増大しています。それに工業化の面でもポリプロピレン樹脂加工の導入に成功して、主産品であるソフトロープの生産は全国シェアの四〇％に達するようになっており、その協業組合方式の経営の成功とともに、ユニークな地方産業が育ちかけました。そこでトピックスをふたつみつ……。

○
ひじょうにむつかしいといわれて、なかばあきらめられていた「ヒラペ」の養殖に、大名草の足立昭四郎君、市原の足立英昌君など

ヤングパワーの努力がみられました。数年ごし失敗の繰りかえしであったのですが、ことあたりからぼつぼつ採算ベースに乗りかけたもので、いまフ化養殖されている稚魚は数十万尾。各地から引合いがありますので、この渓谷の味、川魚の王者の味が在京の皆さまの食膳に上る日も近いのではないかと、私もその成果に期待しているところです。

○ もうひとつは、丹波と阪神都市圏との縁組みが整いそうなこと。先月、阪神広域都市行政協議会の席上で、一谷副知事が「阪神間の都市と丹波の生活共同体」という考え方を発表されましたが、氷上郡でも大いに好感をもって迎えられました。これは、過密と公害にあえぐ阪神間都市と、どちらかといえば過疎で、しかし汚れぬところの広大な自然をもつ丹波とは、隣人同志、有無相通ずることによって、調和のある発展を図れるのではないかというもので、この結果、丹波の将来は、四十万田園都市を目標にしようという長期構想です。

○ 近畿縦貫道路舞鶴線が実施段階に入ってい

るし、但馬阪神連絡自動車道も、日本海太平洋連絡自動車道と構想を飛躍させて、すでに沿線の経済調査に入っている……。さらに加えて県構想では、阪神丹波新幹線鉄道を新設して、二〇～二五分の交通を実現するというもので、事業費約一兆円。雄大かつ画期的な内容を盛込んでいますが、その実現は決して夢ではないというわけです。実際、民間における氷上郡の都市的便益の供給というか、開発の先取りは、すこぶる活発であります。なにかんづく氷上町ではブーム到来と、先ごろの丹波新聞も報じました。井中あたりでは、セカンドハウスや貸農園、それにジョッキークラブまで出来ているのははじめ、新郷の赤井野ではゴルフ場、八丁の国道沿いには柏原ボウルにつづいてボーリング場の建設と、レジャー施設がくびすを接する状況です。

○ 青垣町でも、いま公民館、体育館、資料館とかなる町民センターを建設中ですが、これとても、各町の公民館や、中心施設である県立文化会館と結びついて文化施設のネットワークをつくらうという趣旨もありますので皆さまご帰郷の節は、ぜひお立寄りねがいた

いと存じます。

それにいま、大名草から生野へ通ずる峠道は、ダンブ群で過密状態ですが、それというのも、上生野県営ダムと、発電量で日本一といわれる関電多々良木ダム（朝来町）の建設がすすんでいるからでありまして、これが出来ると、絶好の観光コースになります。

ともかく、これから数年の氷上郡開発の動きは、刮目すべきものがあると思いますし、将来の明暗を分けるものでもあります。在京の皆さま方にも、ぜひとも大所、高所からのご指導、ご援助をおねがい申し上げる次第です。（青垣町助役）

☆

“ニュー丹波”への夢

有田喜一



紺屋の職人と高尾太夫の物語りではないが、夢は大きく、希望は高く持つべきだと思う。しかし政治はその先見性と実現の可能性如何の見透しを立てることが必要条件である。いたずらに空理空論をもて遊び、単なる夢物語りに終らせてはならない。

私は政治を志して以来二十数年、終始一貫この郷土の開発発展にひたすら微力を重ねて来たが、今思い出しても、丹波から阪神方面に電話するのに、朝申込んで夕方にやっと

通じる状態だった。大阪、神戸への回線をせめて一本増やしてほしいと初陳情があった頃にくらべると、今や通信をはじめ、道路そのほか隔世の感がある。

◇

先般、県が発表した丹波開発の新構想は、聞く人をして壮大な夢の未来図に驚嘆せしめたが、また逆に眉につばをつけた人もあったと思う。だが丹波のためには、われわれは何としても紺屋高尾の物語りではないが、この恋を結実させねばならない。

ご存知のように、兵庫県には過密公害等深刻な都市問題に悩む阪神地区と、豊かな自然に恵まれながら過疎現象に悩まされている丹波地区とがある。この両極端をいかにして結び、どのようにバランスをとるか、それは今日喫緊の課題である。

人口をみて、大阪市は二〇三平方キロに

約三〇〇万人、神戸市は五三七平方キロに一三〇万人、大阪―神戸間の尼崎市を筆頭に六市一町で、四三〇平方キロに約一四〇万人、逆に丹波二郡で八六九キロに約八万人と人口密度は約五五分の一といったケタ違いである。

距離的にも、直線にして阪神より丹波まではせいぜい五〇キロから七、八〇キロ、大阪駅より神戸駅まで五一キロであるから、新構想の通り時速一五〇キロの新幹線並みの鉄道を走らせると、二〇分位で阪神間に出られることになる。私がかねてから主張している丹波発展の鍵が、交通（運輸）通信の整備にあるとするゆえんもお分りいただけると思う。

幸にして、電話は水上郡はすでに全部自動化になり、多紀郡も着々と自動化が進められている。

国鉄篠山線は廃止という残念な結果をみた

が、その見返りとして、かねて熱望していた福知山線の複線化が実現の運びとなり、国道も一七五号線（明石―舞鶴線）や一七六号線（大阪―福知山線）の整備が着々と進み、また遅れて国道に編入された一七三号線（池田―瑞穂線）も、今年から福住―天王間が太々的に改良されることになっている。

その上、高速道路の近畿横断自動車道（舞鶴―大阪）とか、また但馬方面から遠阪峠を貫いて氷上郡の西側を通り、多紀郡を経て阪神に至る山陰阪神高速道の建設など、逐次具現化されようとしており、丹波の明るい材料は一杯ある。

これらの実現の上に、丹波は人口四〇万人のベッドタウンを造るという丹波開発の新構想こそ、欣喜の限りである。

◇
緑なす丹波の自然を潰すことなく、また丹波の美しい伝統と人間性を見失うことなく、公害のない理想郷「ニュー丹波」を造ろうではないか。その具現化の早からんことを新年に際して祈る次第である。（本会名誉会長）

郷土と企業に奉仕

関東氷上郷友会会長 足立三治



新しい年を迎え、会員の皆様にはますますご健勝のことと心からお慶び申しあげます。さて、過般の総会におきまして不肖私、関東氷上郷友会の会長を命ぜられました。もとより浅学微力、その任にあらざることは、誰よりもよく私が存じております。

私は郷土を離れて四十八年、おかげさまで大病も克服し、幸いにも一業に生きる喜びを味わっておりますが、さらに企業にこそしきり、職業を通して社会に奉仕したいと念じております。

今日まで、諸先輩によって創りあげられました伝統ある郷友会の業績をふまえ、今は亡き石橋前会長の郷土愛精神をうけつぎ、新しい激動の時代にこそより親しまれる郷友会になることをねがって、微力を捧げたいと存じます。

会員の皆様とも機会あるかぎりよく語り、ご支援とご指導とを仰ぎながら、郷土と企業とを通じて、本会の発展に寄与できることを念願しております。

過般、有田喜一先生を、伴仲さん、松山さんとともに衆議院会館におたづねし、本会発展のために名誉会長就任方お願いしましたところ、ご快諾をいただき、たいへん喜んでおります。会長の就任に際し、一言ご挨拶いたします。

新役員に三婦人選出

名誉会長 有田喜一氏
会長 足立三治氏

新役員 (順序不同)

顧問 田 誠・荻野定一郎・生駒篤郎

名誉会長 西川政一・芦田秀雄 (新任)

会長 有田喜一

副会長 足立三治 (新任)

監事 渡辺金三・伴仲信次・松山幸逸 (以上新任)

常任理事 竹村政雄・須原 清 (以上新任)

監事 上山 顕・横山幸三・永井常資・

山中一郎・荻野英夫・村上末吉・

前田和市・安達陽一・荻野 武・

足立 正 (以下新任) 細見綾子・

植村章子・木村つた江・小谷正巳

足立誠一・常岡幹彦

理事 高見嘉都司・小谷正雄・田辺輝一

郎・小林武治・野村利吉・田中健

治・広瀬幸太郎・林谷 集・足立

治 (新任)

有田喜一氏略歴

明治三十四年四月水上町谷村に生る。大正十四年東大経済学部卒業後通信省に入り、鳥

取郵便局長を経て通信烟を歩み累進して海運総局長官から内閣官房副長官となり、昭和二十四年の総選挙に郷里を舞台に出馬、見事初当選して以来今日まで当選八回、その間民主党、改進黨、日本民主党、自由民主党の各党の総務、政審委員等の要職を歴任、四一年文部大臣兼科学技術庁長官、四三年國務大臣防衛庁長官に就任、その重厚な性格と卓越した時局認識を高く評価され、次期政権では三度び大臣また党三役の呼び声が高い。

足立三治氏略歴

明治四十年四月二四日青垣町に生る。昭和九年川崎市砂子町で「つるや洋装店」を開業十七年川崎市繊維製品統制会初代理事長に就任、さらに県組合常務理事も兼任、終戦直後の二一年、新丸子に「つるや産業KK」を創立、初代社長となる。二三年神奈川県布帛協同組合常務理事に就任、三八年川崎北ロータリークラブ会長、四二年東京婦人子供服工業組合理事長、四三年川崎商工会議所副会頭、全日本婦人子供乳児服連合理事、日本商工会議所経済政策委員などを歴任、さらに四四年以降東京卸売センター婦人子供服組合理事

関東水上郷友会は十八年余にわたって会長の重責を担われてきた石橋治郎八氏の逝去によって沈痛の空氣がみなぎっていたところ、さる十一月七日の秋の総会において下記の如く、名誉会長に有田喜一氏、新顧問に芦田秀雄氏、新会長に足立三治氏、副会長に渡辺金三、伴仲信次、松山幸逸の三氏、さらに女性三名を加えた新理事多数を補強して、新しい運営に乗り出すこととなった。

従来とかく活発な活動に欠けていた感のあった役員会は女性理事の発言も強化され、足立新会長の意欲的な情熱に刺激されて、面目一新の郷友会が待望されるに至った。

会員各位の御協力を切に望みたい。

長をも兼ね、婦人子供服業界のトップリーダーとして活躍中。

芦田 秀雄氏 略歴



明治二七年七月一日
水上町方町に生る。大正七年早稲田大学商学

部卒業後、直ちに高田商会に入社、呉、名古屋の各支店長を歴任、昭和八年六月本社取締役営業部長に昇進、東邦商工、奉天機器製造各会社の常務取締役兼務を経て、同十八年工進精工所社長に就任、かたわら千歳工業、三和精機、富双ゴム工業の各社会長として活躍す。現在なお高田商会、工進精工所、三和精機、富双ゴム工業各社の取締役、相談役として長老の重鎮、すこぶる健康。

渡辺 金三氏 略歴

明治四十年四月十日、氷上町朝坂に生る。渡辺紙工業が明治四五年、渡辺泰造氏によって創業、大正十二年に株式会社を設立される



や、学業を放棄して入社、爾来、この事業一筋に専念した。大阪、

柏原、京城、広島、名古屋、東京と各地の工場または支店営業所長等を歴任、さらに、常務、専務各取締役をへて昭和三四年、取締役社長に就任。その姉妹会社である渡辺製袋株式会社社の取締役社長も兼務し、紙工業界に首屈一指の地盤を築いた。趣味・囲碁、盆栽。

伴 仲信次氏 略歴



明治三九年十二月十六日旧春日部村多利に栄蔵二男として生る。

高等小学卒業後大阪へ出郷、合名会社山本組に入社、かたわら関西商工建築科を卒業、昭和二年山本組解散後は村上工務店工務部長、藤木工務店立川出張所長を経て藤井組取締役

工務所長就任、十九年独立自営、二十四年六月春日建設KKを創立、その社長に就任、今日に至る。二十五歳のとき謡曲を習いはじめた約四十年、今だに師匠から叩かれる始末、六十歳から初めたゴルフも今日では郷友会のリーダー格で、多忙の裡を会員の面倒を見ていい好人物。

松山 幸逸氏 略歴



明治三三年十二月、春日町東中に生る。鳳鳴義塾（篠山）を経て

日大政治学科を卒業。直に報知新聞に入社、通信、政治、整理各部長を経て編集局長。昭和十七年読売、報知合併を機に退職。戦後報知新聞再建に奔走、取締役企画局長となったが間もなく公職追放令該当。二六年東京放送発足に際し入社、考查、事業各部長を歴て定年退職。東京太平広告（株）を創立、代表取締役となり今日に至る。かたわら東京協栄社に關係しビル管理の仕事を手伝う。俳号、竹水。



郷愁

ひとしお

四十六年度 秋の総会

写真は「名主の滝」総会
受付のスナップ

関東水上郷友会昭和四十六年秋の総会及び懇親会は小雨けぶる十一月七日午後一時から東京王子の名園「名主の滝」公園で開催。足立正氏が司会となり、故石橋治郎八会長を初め物故会員に対し黙禱を捧げてから始まった。会務報告（伴仲理事）会計報告（橋本理事）のあと、議長に松山理事を推し、議事に入った。

田健治郎男以来の郷土の生んだ大政治家である元文部大臣有田喜一氏を本会

の名譽会長に推挙する件

を議題として、万場の拍手をもって推挙するに決したあと、石橋会長逝去に伴なう後任会長、役員の選挙の件を議題とした。横山理事の議長一任の動議によって、新会長には足立三治副会長の昇格、副会長芦田秀雄氏の顧問、渡辺金三、伴仲信次、松山幸逸の三氏の副会長、さらに監事、理事にそれぞれ別記の諸氏を選出することを満場一致承認、足立新会長の就任受諾の挨拶があって、総会はこの無事終了を告げた。

今回の総会において新しく細見綾子、木村つたえ、植村章子の三氏を理事に加えたことは、今後の郷友会の運営強化に大きな期待と新鮮さを加うることになる。

盛況の懇談会

総会を終って直ちに懇談会に入り、わざわざ丹波の青垣町からかけつけてくれた助役中尾久雄氏から、郷土の最近の開発状況を詳しく聞き、大いに郷愁をさそう一幕もあり、酒食のまわるにつれて、会員から活発な発言が出たり、丹波ぶし、民謡の合唱やら鮮やかな

手品の披露に、会場は丹波人の会合らしいなごやかな雰囲気になった。

当日の出席者次の通り。

足立治、足立かをる、足立三治、足立誠一、足立正、生駒篤郎、植木英吉、植村章子、大西淑恵、荻野武、柿原清、木村つた江、小林章乃、斎藤俊一、鈴木和栄、高見すみゑ、田

辺信夫、千葉淳子、槌玲子、常岡幹彦、永井輝江、野村虎男、野村千里、橋本信幸、林田孝子、林谷集、伊仲信次、(中尾久雄)、広瀬靖典、藤原岩市、松山幸逸、横山幸三、井田悦子、井田良則、鶴沢洋子、鶴沢淳一、芦田美代、芦田幸夫、堀川万次、須原清、塩見つゑ、足立心一、足立栄(以上四三名)

四十六年春の総会

関東水上郷友会の春の総会は昭和四十六年五

月十六日、東京芝の浜離宮恩賜庭園芳梅亭で開かれた。この日快晴に恵まれたため定刻の午後一時には早くも出席予定者を超える盛況、裏方の世話人が弁当を追加注文するやら席を無理して押し込む形となって大騒ぎの中で開会。折柄石橋会長が西下中で不在のため松山監事が、会長の指名で挨拶、会員の自己紹介は会の発展のためのいろいろの意見の開陳など活発な発言があって、開宴に入る。酔いの廻るにつれ、放談、懇談が会員入り交って交歓のち、庭前で記念撮影を行ない午後

四時頃散会した。

当日の出席者次の通り

須原清、生駒篤郎、渡辺金三、渡辺幸子、松山幸逸、藤原信男、余田貞雄、常岡幹彦、荻野演一、永井輝江、小林剛、吉住重造、野村虎男、植村章子、長富千代一、景山正吾、木村つた江、荻野武、足立正、菊池顯三、菊池武利、野村利吉、野村千里、上山顯、堀川万次、永井常資、永井希代子、足立治、柴田勝太郎、柴田志佳、鶴沢洋子、芦田美代、土井崇司、畑光、藤原岩市夫人、以上とその家族
総計四一名

珍しいバスの旅

四十五年秋の大会

関東水上郷友会の秋季総会は昭和四十五年十一月二九日の日曜日開催された。今回の企画は珍らしくバス旅行?を兼ねた変わった趣向の下に行なわれたもので、一行は朝九時半に東京駅前に集合、バス一台を借り切り、東海道を西下、まず川崎大師に詣で一同のしあわせを祈願し、横浜の「港の見える丘公園」に赴く。恵まれた快晴の秋空の下、港の風光や外人墓地など散策やスナップ撮影など一刻の休憩のあと、名物山下町中華街「聘珍楼」に至る。ここで美味な中華料理を味いながら懇親会を開く。形通り、石橋会長の挨拶や伴仲理事の報告のあと自己紹介や乾杯を行い、終つて、石橋会長が中心となつて出来上つたシルクセンターを訪れ、シルク展示室や映画に打ち興じ、夕やみせまる頃再びバスに乗り、車中の余興にマイクを廻し廻し唄いながら、東京駅で明春の再会を約してめでたく楽しく散会した。

随想

随感

古里の風物

荻野完 二(山南)

初春の光うららに照り映える
激動のなかにも

今年の正月、私は、こんなことを書いた。

そしていま、その激動の年が、ようやく終ろうとしているが、その勢いは、いっこうに衰える色をみせず、いや、ますます荒々しく内と外に荒れ狂おうとしている。

内にあつては、ドルショックによる経済不況、沖縄復帰問題、公害問題等々であり、外にあつては、中国の国連入りを契機にした、米・中・ソ三極による世界新秩序の新しい展開などがそれだ。

そして、近い将来に行なわれるという、米・中会談、米・ソ会談、そのどれをとっても、日本に直接大きな影響を与えるものである。

例を、米・中会談にとつてみよう。ニクソンは、この会談で、台湾問題について、どういふ話し合いをしようとするかが問題である。

ニクソンは、恐らく、一月に会談が予定されている佐藤首相との話

し合いと合意なしには、台湾を中国のいいなりにする政策をとることはあるまいが、しかしもし、情勢の変化によって、強硬に台湾抛棄を執行したらどういふことになるか。それは台湾にしつこくしがみついている日本の政治家に、大きなショックを与えるばかりである。その結果が、わが国の立場を不利に導くことは明らかだ。

自民党政府は、いまこの問題について慎重検討しているということだが、大国が、国益優先のみを考えて、他を顧みる余猶をもつていないことを知るべきであらう。

この一つをとつてみても、四七年は、また激動の年になりそうだ。そんなことを考えていると、平和がほしいとつくづく思う。これも、私の年齢のせいなのだろうか。

年というところ、このごろ、よく丹波の古里のことを考えるようになった。それは年をとつたら私の生地ではないが、篠山の歴史を調べたいと、かねがね考えているからである。

というのは、私の祖母の生家の父が、篠山の油屋六右衛門といい、今は、その家が絶えているので、篠山の古い時代を探りながら、それを明らかにしたいと思っているからである。

とにかく、篠山といい柏原といい、古いものを適度にのこしたい町だ。

古里は、遠くにありて思うものかも知れないが、私は、古里の風物を、今もしみじみとかみしめているのである。(民放研究所々員)

(四六・一二・二)

ふるさとの味

足立順治(永上)

近詠

須原松柏(市島)

ことしの夏、丹波へ帰って見てはんとくに驚いた。大変なことになる。僕の生家(幸世)附近の山や畑が別荘地に開発され、山の中には立派なアスファルトの道路が出来ているし、その道路の両側には蝶の触角のような高い高い螢光灯が五十メートルおきぐらいい立っている。夜はそれらが皎々と輝やいていて、竜宮の里が夢の中から飛び出してきたような錯覚を起す。またその山の奥の方には大阪の帝塚山学園が三階建の研修寮を建てて、常時五十―八十名ほどの学生が研修とレクリエーションに來ているという。

町中には水道も布かれ、各家庭には燃料のプロパンボンベが何本も並んでいる。

公害、農薬の被害の全くない山の奥だけに、鳥、虫、蛙、いもり、へび、トカゲがそこいらにいっぱいいるんだから、うらやましい環境だ。それはむかしのままであるのもまた驚ろきだった。

七十才の老いの坂を超えて、公害の都会生活を予儀なくされている身で、こうした自然の環境に恵まれたふるさとに住めないのをうらめしく思う感慨ひとしおのものがあつた。

生家にはいまでも十五、六人ぐらいいいつでも泊れるだけの設備があるから、来年には一家そろって帰って見たいと、あれこれ思いながら三日間、ふるさとの味をかみしめたことだった。

去る十月十二日、京都二条城隣りの国際ホテルでの(姪の長女の)結婚式出席をチャンスに、半減された姉兄弟三人は、よき冥土の土産にもと、丹波の姉の家に一泊し、翌十三日、その山に辿りついたが……

古稀すぎし 姉兄たちとふるさとの

山のぼりたり きのこ求めて

境界の 朽葉に覗く 笠みつけ

歓声挙げし 都会の児ども

茸山に ゴルフールが 支配して

O・Bはだめ O・Bは駄目!

境界に 間近ききのこ 触れささず

厳しくさす ふるさとの兄

足もとに 香はみちたれど 姿なし

三千両なり 今年の茸は

従つて せめて土産物は 栗なりと……

茸山へ 迫る みちべや 栗の音

せんぶりと りんどうの道 栗のいが

銀の笛

深尾須磨子

(春日)



かし、私が初めて銀のフルートを吹いて以来、フルート人口がめつかりふえたし、立派な若いフルーチストもたくさん輩出した。私の役回

初冬の霧がもやつたモンマルトルの坂道を、ポルト・ミュージックたずさえて、先生のアトリエに急いだのは、この私であった。フルート熱上昇のあげく、過分にもフルートの神マルセル・モイーズに師事、帰国の後、ラジオ放送や公会堂のステージに未熟の技を恐れなかったのは、全く若気のいたりであった。今ではまぼろしのフルーチスト、先生ごめんなさいと身辺多事を申訳に、いつも手をあわせている。

りはこれで十分と欣喜しているが、その私も、やがて手慣れのフルートをあし笛にとりかえて、列島おんな笛吹き渡ると、それを吹き鳴らしつつ、日本列島の長汀曲浦を歩いてゆきたいと夢見ている。(詩人)

(昭和四十六年十一月二十八日附、朝日新聞特集版より転載)

怪我と酒

余田貞雄(市島)

秋の総会に出席を楽しみにしておりましたところ、昨夜(十一月一日)道路で転んで、顔を傷つけ、体裁が悪くて人前に出るのが格好悪い状態となり、自棄自得! 一週間ほど自宅謹慎、正月号の原稿でもかいて過ぎねばならない始末です。

これまでいくら酒を呑んでも転んだ経験は一度もないので、不思議に思えるので同僚に聞いて見ると、自分には記憶はないのですが、女性と腕を組んで歩いているうちに女性が転んだのに引つ張られて、コンクリートの地面へ顔をたたきつけられた様子で、時計や眼鏡もこわれてしまった次第です。

こうんだ原因は判つたものの、やくざのケンカのあのような顔では恥かしく情けない状態ですので神妙にかまえておりますが、女房からは「借家住いの身で、女を連れて酒を呑んで廻るから……」だとぶくれられるし、抗弁のすべもありません。

欠席の弁、以上の如し。郷友の皆様によりしくお伝えください。

(丹井人社主筆)

育くまれたふるさと

植 村 章 子 (船城)

いつも郷友会また会誌の発行等いろいろご尽力くださりまして、感謝しています。会の発展はやはり会員の一人一人が、関心を持ってくださることが第一です。会員各位が奮ってご参加くだされば、ご意見もたくさん出て、魅力ある会になるのではないのでしょうか。同郷出身というものは、年代を越えて親しみを感じ、自然と話題もあるはずです。私も故郷を出て五十年、来年は古稀になりますが、故郷はなつかしく、時折帰国しては昔を偲びます。山や川のたたずまいは変りませんが、国道が通り、近代建築の住宅が並び、町並もきれいになりました。農村の生活が都市生活とあまり変わらず、殆んどの家が車が入り、日曜日はお母様の運転で子供達とレジャーを楽しまれるとか、戦後の故郷の目覚ましい発展ぶりは、訪れる者をなごやかな気分にしたらせてくれますが、また感無量なものがあります。自転車さえない時代、柏原女学校まで通うのに朝六時半に家を出たものです。冬はまだ薄暗く、雪の日など誰も歩いてない道を、七時二十分石生発の汽車に乗るため、小一里の道をかけ足みたいにして、通学したことなど、遠い遠い昔の思出になってしまいました。そのころに知らずしらずにつちかわれた忍耐力は、その後の私の人生にどれほど大きな影響を与えたことでしょうか。三十年前支那事変で夫に先立たれ、そのうえ戦災で丸焼けにもなりましたが、今ではどうやら二人の子供も大学を出て、伴夫

婦孫三人と賑やかな日を送っております。辛抱強さを育んでくれた「ふるさと」が、ますます開発され発展することを願っています。郷友会の皆様もご健在でご多幸にとお祈り申し上げます。

平安な日々 野 村 千 里 (旧姓井上)

氷上郷友会につきましていろいろお骨折りいただき、また郷友会誌山ざるを御発行、なつかしく拝見いたしております。私共は在京すでに半世紀以上を経まして、行手にはたゆたえる寂光を見る年令でございますが、故郷は年と共になつかしさが益すものでございます。私も大正時代には柏原中、女学校の同窓が幾組も実業家や軍人官吏として活躍しておられまして、まことに楽しいご交際をしていたしました。戦後は時代が一変して若い世代に変わりましたが、二人とも健康にめぐまれ、孫に守られながら目黒柿の木坂の地に平安な日々を送っております。拙い短歌を日頃の生活の一端と御目にかけます。

冬 の 虫

(野村利吉氏夫人、幸世出身)

お点前の障子にうつる虫のかげ
冬のぬくみを拾って遊ぶ

木木の根にまだらに残る雪さえも
おもむきさえて茶庭寂もる

茶せん供養優雅に集ふ百花園

今日は彼岸の中日にして

交錯の枝おもしろくそれを縫ひ

椎の古葉は風におどれり

我庭の餌場こもごも確かむる

尾長は椎の枝に止りて

気楽な夫婦生活

堀川 萬 次（柏原）

病氣と貧乏の悲慘極まる深刻な体験者である私は、苦心研究の結果、現代医学は人体に百害あって一利なく有害無益なりと断を下して以来今日まで三十八年間、どんな大病をしても、大怪我をしても断じて医師にかからず、薬も吞まず、信仰もせず、禍を転じて福となす独特の手当で健康を回復しました。

今や私は他人からうらやましがられる健康体となり、頭も二十代の青年をしのいで侃々がく、名譽や地位や財産など屁とも思わず、一人一党正論を吐いてゆぜらず、底抜けの生粋の野人であります。人生の根本である健康のことなら世界中のどんな人が束になって来ても負けない自信をもって、夫婦二人きり、水いらすの気楽三昧、人間最高の幸福な生活をして天下の大道を闊歩しております。

（天下無敵の性豪）

老人問題を考える

木村 つた江（市島）

秋の夜長にものおもう——そんな年頃でもないのに昨今しきりに何処からともなく、

「何かやれ、何かを残してしかる後逝け」こんな声がしてせき立てられているような気がしてならない。二人の娘にはそれぞれ二人ずつ孫が生まれ、長男も大学を出て独立をするようになった現在、自分を必要とする人間は当年六十三才になる旦那さまだけである。この旦那さまは自分より八ツも年上であるが、五十才の時「胃せんこう」で大手術をして以来若返り、四十代の従業員がねをあげる程の体力が出来た。その上働くことが趣味のような男性だから、自分は妻の座にどっかと腰をすえて小さな会社の運営に協力していれば万事まるくおさまるといふ有難い身分ではある。が、つらつら考えるに、自分は何のためにこの世に生れてきたのかと自問自答しているうちに、もう老人の仲間入りをしなければならぬ立場になっているのに気がつく、思わず背すじが寒くさえなってくるような昨今である。

去る十月某日の朝日新聞の「ひと」欄に、老人医学に取り組んでおられる群馬大学医学部教授の記事が出ていたのを読んで、ここ数年来老人問題を考え続けていた自分と同じ意見を持たれていることに感激し、早速お便りを出してしまつた。半月程してお返事を戴いた。学会に上京される日にお目にかかる運びになっていたのであるが、あい

く双方に差しかえが生じてせつかくのチャンス逃してしまったので、次の機会を待ってぜひお話を拝聴したいと考えている。人間は誰しも年をとり、いつかは死ななければならぬ。しかし何となく「死」ということをさけて暮していながらも、心の何処かで恐れている。生への執着に他ならないだろう。が、実のところ心の準備が出来ていないのではないか。死の瞬間までしあわせであるようにと誰しもが願っていると思う。

都会、農山、漁村を問わず、経済的に恵まれた健康な老人はさておき、病弱で貧しくその上身よりもない孤独な老人、ましてねたきりの老人に、国や地方団体がどれ程の手を差しのべてくれているだろうか。何とかしてあげられないかと、もどかしがってみても個人の力には限界がある。老人ホームを増やすのもいいだろう。しかし心のよりどころがそれ以上に求められているのではないだろうかと思う。ではこれからの老人の心構えとして自分で自分の最後の幸福を守るためにはどうしたらいいかを掘り下げて考えねばならない社会情勢になっているのではないか。まして女性は男性より五年も平均寿命が長いことが判っている以上、婦人の老後が老人問題の焦点になりそうである。

先日YWCAの老人問題研究会で『美しく老いるにはどうすればよいか』という話題が論議された。その中から二、三拾ってみると、先ず自分の健康管理は自分でやる。年令にこだわらず何かの形で社会とのつながりを持つようにつとめる。趣味を持って明るい毎日を過ごす。そして子供等の負担にならない方法を考える等々。自分の境遇に応じてそれぞれ方法は異なるだろうが、自然界に生をうけた者は必ず自然界にかえらねばならないことを自他共に「許し」の精神を持つて

考えることが老人問題解決への糸口になるのではないかと思っている。
(老人問題研究所長)

いま一つの「ふるさと」

前田 和 市(丹南)

二十数年前、私は海軍兵学校在学中に終戦を迎え、海軍士官への夢が絶たれたので、止むなく広島高師の数学科に進学しました。夏休みに広島から帰郷した時です。我家に生まれて二、三ヶ月の赤ん坊が泣き声を上げて、それが新しい弟だと聞いた時はほんとうにびっくりしました。両親ははるかしくて私に知らせられず、何とか処置をと考えたようですが、手遅れか医者未熟のためか、止むを得ず出産したといっていたのを記憶しております。私は当時十八才で兄妹七人、私も少なからずははるかしい思いをしたのを覚えています。

確かその頃、母から叱られた時、言っではならないと思いながら「頼みもしないのに生んでくれた」と、一度か二度口にしました。これは今考えると、赤ん坊にオッパイをやる母でなく、十八才の自分の母であつてほしいという独りよがりの欲望だったと思います。今十代の子の親になって、改めて両親に心からお詫言ひし、懺悔せずにおれません。

その一番末の弟も、危なく水子にされかかったのは嘘のように、今日二十一の青春を司法試験に打ち込んでおります。年老いた両親にとても可愛い末っ子であり、兄妹の中では誰にもなくてはならぬ一

番出来のよい、頼もしい弟です。

この「頼みもしないのに」という言葉を、心にも思ったことがないと言える人は、案外少ないのではないのでしょうか。ほんとうに頼みもしないのに私達はこの世に生れて来たのでしょうか。

私がこの世にあることは、生物学的に考えても、無数の精子の中の一つとある一個の卵子の出会いです。父と母から私が生まれることだけでも奇蹟に近い、それが何百、千の世代の後に私が今ここに居ることとは、まさしく、奇蹟以上のことです。それに加えて、前世の善き因縁によって、人間として生まれることができたと考えたと、経文にある「人身は受け難し」また「人と生まるるは難く」ということがひしひしと胸に響き、思わず合掌せずにおれません。

せっかく生まれて来たのだから、ある人は面白おかしく人生を謳歌しようと思ひ、またある人は一生懸命生きて後世に名を残そうとするでしょう。例えば名が残らなくても生まれて来た甲斐のある、悔いのない毎日を送りたい、私でなければ出来ないことを成し遂げたいとねがう人もあります。では、どう生きるのがほんとうの幸せなのか。今、生きている今の日決めなければ間に合いません。

その幸せの道はみ仏の説かれた道を歩むことです。出家でない私共は在家即ち、今の仕事のまま、家庭にあるまま、この世に常楽の浄土を顕現出来るのです。釈尊が入滅される時、「私亡き後はこの教えを私と思いなさい。永遠にこの中に私は生きているから、この教えを信じ行う者は不可思議な神通の力をもって加護される」と説かれた涅槃經の中で在家成仏の道をお説き下さいました。「この世に人と生まるるは難く、仏に遭うことな難きことは大海の盲亀、浮木の穴に遇う

が如し」。この遭ひ難い仏（涅槃經の教え）に触れることのできた人々は、因縁消除の道を教えて頂き、病から救われ倒産の因縁から立ち上がり、一家心中の一步手前で家庭のほんとうの歡喜を得ました。一つの故郷を共にする縁に結ばれる同郷の方々に、功成り名遂げるだけでなく、命あるうちにみ仏の縁に触れて頂きたいとねがって止みません。

◇

み仏を信じ、教えられたことを素直に行った時、不可思議な威神力を頂く。私の家でも、医者が早く手術をした方がよいといっていた次男の脱腸が、み仏の靈界に相談を仰いだ時に、その夜の入浴時にじやがいも程もあつた脱腸が跡形もなく消え失せていたこと。その次男が交通事故で、運送店のトラックと生身で激突しながら、何の後遺症もなく治癒したこと。仕事の上で一番大きなお得意が駄目になりそうになった時、靈界の御指示を頂いて当った時、不可思議の連続で舞台が好転して行ったこと。ここ入信六年有半に頂いた数々の事象は数え切れません。

それでは、どうしてこのようなすばらしい救いを頂けるかと申しますと、このみ仏の残された真理を歩ませて頂くとうと、心に決め、歩もうとする人が、病氣や商売の破たんを来たしては、教えられた大乗の道が歩めません。だから、その人の決心と行っただけのものが、副利として与えられるのです。

量子物理学の先端を行く学者や、お医者さん弁護士の方々に深い信仰に生きることが多いのも、科学・医学・法律より大事なものの、云いかえると、科学以上の科学、医学の及ばない病氣、法律以前により大事

なものを発見されたからです。その物理学者はみ仏の道に研鑽しながら、同輩以上にすばらしいインスピレーションが湧き、入信した産婦人科医院ではそれ以後、親見一人として死亡診断書を書いておりません。

◇

古い話に、孝行しようと思つた時に親は亡し、というのがあります。ところが親はおろかはるかに遠い先祖にまで、布団以上のものがかけてあげられるのです。この教えでは如来神通の力で、その人一人一人に先祖因縁を教え、それを浄め救い上げる方法を示して頂けます。それが御護摩・御施餓鬼や実践の方法として具体的に教えられます。ある宗派の大僧正も自分の渡した引導で成仏出来ない霊に責めさるゝいなまれている時に、この施餓鬼で救われた程です。

この世の病氣・事業の不振・家庭不和等は、そのまま、亡き先祖の姿そのものといえますから、ほんとうにあの世の先祖霊を救うことは、即自分が救われることになります。事実、一回の御施餓鬼で、長年の難病から救われた例がしばしばあります。またその先祖の因縁霊を救つて頂くと、自分や子や孫が同じ因縁に倒れないことになります。

亡くなった方にとって、この涅槃の靈界に摂受（一諸に仲間入りする）されることは、砂漠で行き倒れる寸前に泉に辿りついた以上といわれます。生きている方がこの涅槃の教えに結ばれた時、先祖も一諸に涅槃の曼陀羅界に感泣しながら摂受されて行きます。

◇

宝塚を過ぎて、トンネルまたトンネル、暗闇が明けて緑が飛び込ん

でくる、目の前に手に取るような溪流の流れが耳を打つて来ると、ふるさとに帰つて来たという実感がひしひしと湧いてくる。上京して間のない頃、指折つて帰省の日を夢に見たふるさと、始めての幼な児をそつと抱き通して父母の故郷に帰つた十数年前、また四十二才の今福知山線の車窓に思うこと、ふるさとは何時になつても暖かく迎え包んでくれます。

私は六年前に、この生れ故郷のなつかしいふるさとのほかに、今一つの心のふるさとを得ることができました。仕事に行き詰つた時も、世間の中でもみくちやにされた心の苦痛も、この心のふるさとに抱かれ、その靈氣に触れると、何処かへその苦しみが無くなつてしまふ。それは理屈でなく、教えを求める誰の上にも起る不可思議な事象です。入信して始めてこの心のふるさとに足を入れた時、とげとげした顔の方も、憂愁に打ち沈んだ人も、二三ヶ月目に会おうと別人のように影がとれている。泣き叫んでいた子供まで、母親の洗われた心を映すようにニコニコ遊んでいる。

涅槃経は毛穴から入つてくるといわれます。字の読めない老人・子供にまで威神力が及んで行きます。勤めの人には日曜を待ちかねて、このふるさとに帰り、靈界から身心の浄めをいただくとともに、因縁に打ち勝ち消除して歩んで行く明日からの道を教えて頂いて、歡喜勇躍、明日からの精進を誓つて我が家路に向かうのです。

先祖何百代の因縁の垢を洗つて頂ける、自分是如何に生くべきかを休解して、ほんとうに生きる歡喜とは何かを知ることの出来る、この今一つなるふるさとは、その名を「真如苑」といい、総本部は東京の立川にあります。それは肉体なき後も私の永遠の魂のふるさです。

私の丹波

細見綾子(青垣)

私は東京に住んでから十五年になりますが、私はど東京色になりきらない者はいないのではないかと思います。丹波の人間そのままです。ことさらそうしようと努めて無理をしているわけではありませんが、私の自然さがそうなのです。

東京に今ではずいぶん多くの知人、友人がありますが、その人達は皆私が丹波人であることを知っています。私のことを誰かが何か書いてくれる時も、必ず丹波の人だと書きます。丹波のことを何も知らない人も丹波とは私のような所だろうと思っているようです。私の家に何か珍しい食物があると、これは丹波のものかと聞きます。丹波は私の知人の間では「ふるさと」を意味するものになっているようです。今では私だけの「ふるさと」でなく、人々の「ふるさと」にも思えるような「丹波」を、私はほんとうにいい所だと思っています。

今や日本人は、ふるさとを失いつつあるともいえますが、そういう時、ふるさと丹波は一層大切な所になりました。

私は武蔵野に住んでいます、十五年前家を建てる時、丹波から材木を持って来ました。また大工も丹波の人に頼みました。設計者ははじめちょっと困った顔をしていましたが、いざ実際にやってみますと、丹波の大工さんの仕事の本格的なのに驚きました。板一つ削ってもちがうと言っていました。また丹波の材木の優秀さをも認めざるを得ませんでした。丹波の檜の柱は、十五年たっても少しも割りがはい

らず次第に艶を帯びています。掃除を怠っている吾家でそうなので、これは珍らしいことだと設計者は来るたびに今もおどろいています。丹波の材木も今は武蔵野の風土にすっかり融合しました。荒い関東の風土の中で調和して渋い光りをもった丹波の檜の柱を何か支えのようと思って私は暮しています。

(俳人・俳誌「風」主宰)

ご投稿を歓迎します

随想・随感、身辺雑記、ご意見やご提案、ニュース、お便りなど、どんな記事でも結構です。郷友会の交流を暖めるために、ぜひお気軽な皆様のご投稿を、お待ちしております。書式も文体も、締切り日も特に定めませんので、折にふれて事務所宛にご投函いただければ幸いです。(係)

お便り

東田 実氏（山南） 石橋会長御逝去の由まことに残念に存じます。昨今少し健康を害しておりますので欠席します。悪しからず。

村上未吉氏（春日） 足立会長以下新しい役員の方々で発足されることになり、衷心より慶賀に存じます。次回にはぜひ出席してお役に立ちたいと念願しております。

杉岡明美氏（氷上） 子育てもあと一息というところになって、ぼつぼつ自分自身のことを考えなくてはと成人学級へ首をつっこんだりしています。子供に手がかからなくなるにつれ、友人とくに同郷の友がなつかしく思われます。でも今までとじこもってばかりいた私は、知らない方たちばかりの中へ出向いていく勇氣がないので、困ってしまいます。

高見孝男氏（春日） 去る十一月二十五日附をもって安宅産業株式会社監査役を退任致し、今後は左記住所に落付きますので、何卒従前同様御厚誼を賜りますようお願い申し上げます。氷上郷友会には一度

も出席できぬまま帰阪致します。数々の御厚情深謝申し上げます。

西宮市上大市二―四―二

佐々井一晁氏（氷上） 「山ざる」第三号が出来ましたら御手数ですが、横浜市港北区太尾町三六九 佐々井典比古（〒二二二）へ二部送ってやって下さい。

小林 剛氏（市島町） 二十五年つとめた農林省から、中央畜産会という民間の畜産団体の中央会にかわりましたが、相変らず畜産の振興に関係のある仕事をやっています。何か御用がありましたら御申しこし下さい。

中川四郎氏（相原） 先年来長男方へ隠居、友人ことごとく永眠、当年八九才の老髪です。このため先年来郷友会を退会の手続きも執りましたが、どうかこの機会に御除籍を願います。郷友会の発展を衷心よりお祈りします。

中野正義氏（山南） 長い間ご交誼を蒙っておりますが、老年となり一線より隠棲しておりますので、名簿より除いて頂きたくお願い申し上げます。会員の皆様によろしく。

勝野きしのさん（春日） 新宿区市ヶ谷薬王寺保育園に勤めておりますが、総会当日は保育園の運動会があつて失礼させて頂きます。

近藤敏雄氏（柏原） いつもお世話さまになっております。厚く御礼申しあげます。

岡本庄太郎氏（水上） インマヌエル高崎キリスト教会の奉仕がありますため、日曜日に残念ながら休めません。悪しからず。

井阪いさお氏（山南） 住居表示が「杉並区松ノ木三ノ二五ノ一四電三一一四〇九四に変わりました。なお昨年二月より健康を害し病床についております。

係Ⅱ 一日も早い御全快をお祈りしております。お大切に。

前田朝一氏（山南） 関東御在住の郷土出身の各位の益々御壮栄を心よりお祈り申しあげます。

足立一郎氏（青垣） 町議会議長―せっかくの機会ながら御容赦願います。

細見才次氏（春日） 親戚に婚礼があつて予定がつきかね、残念ながら失礼します。

恵本みよしさん（山南） 荒川区内より埼玉県和光市二ノ一ノ三一〇二電〇四八四―六三一八―一五五へ転居。

阿部小太郎氏・同美江予さん（水上） 北区より練馬区北町一ノ四

四ノ一九電九三一―三二八〇へ移転間なしのため、次の機会に出席させてもらいます。

足立守久氏（青垣） 私の知人で横浜市神奈川区大口通り三五、足立利多加氏（青垣） 電四二―四七一八を入会方紹介します。

係Ⅱ どうもありがとうございます。利多加さん、勤め先や趣味などお知らせ下さい。

足立一郎氏（柏原） 小生現住所にて「東久留米新聞」の発行者として地域社会の発展のため活躍しています。何卒諸先輩の皆さんのご声援、ご指導をお願い申しあげます。

久石幸太郎氏（柏原） 私は昭和二十一年柏原崇広小学校の卒業であります。郷友会のメンバーに同年卒業の方がおられましたら、ご連絡下さると有難たいです。（なお、現在戸田勉君（旧姓島林勉）と交友を続けています。勤務先は日本板硝子（株）千葉工場人事課へどうぞ）

山下易子さん（水上町） ただ今慈恵医大第三病院に入院中で、退院の予定も判りませんので、総会御出席の皆さんによりしくお伝え下さい。

係Ⅱ どうぞお大切に――。

石木正孝氏（市島） 毎回ご連絡いただき有難うございます。秋は商売がら（安宅産業）機械の見本市など多忙のため失礼いたします。

訃報

本庄久雄氏（柏原）

昭和四十五年一月二十二日

沢野 博氏（三田）

昭和四十六年二月二十五日

足立 潔氏（市島）

佐々井信太郎氏（氷上）

昭和四十六年八月九日

石橋治郎八氏（春日）

昭和四十六年八月十五日

依田信太郎氏（市島）

昭和四十六年十一月二十五日

謹んで各氏の御冥福をお祈り申上ます。

厳かに葬儀

石橋翁

昭和四十六年八月十五日逝去された会長石橋治郎八翁の葬儀及び告別式は、同十七日夜の通夜に続いて同二五日正午より横浜市久保山斎場において光明寺光普憲佑上人導師となり仏式により厳かに執行された。葬儀委員長元厚相小林武治氏の弔辞について別記の如き引導が偶せられ、津田神奈川県知事を始め、横浜各界の代表者たちがつぎつぎに弔辞、弔文を読みあげた。そのあと引続き告別式に移り、弔問者の列をなした。

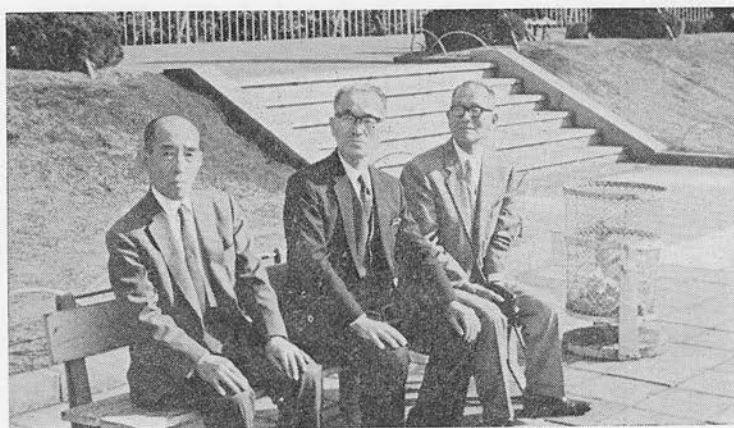
また郷里から元春日町長、本会からは弔電を捧げ足立副会長はか多数が参列弔意を表した。

法名

天霖院潤嘗無量治道居士

引導下^ア炬^ハ

究竟大乘浄土門、諸行往生称名勝我閻万行選仏名、往生浄土見尊体



〈写真〉中央が故石橋会長（右は須原清、左は安藤秀夫の両氏）四五年初、港の見える丘公園にて。

諸行無常の春の花は、是生滅法の風に散りやすく、

生滅々已の秋の月は、寂滅為楽の雲に隠る。

爰に御帰元天霖院潤普無量治道居士靈位、諦聴せよ、念思せよ、受け難き人身を受けて八十有三年、逢ひ難き本願において、起し難き道心を起し、深く浄土念仏の教に帰依し、久保山光明寺檀信徒世話人として菩提寺の護持と信行具足の生活に精進せり、外にありては生糸業界の先達として財界に雄飛し、その功績まことに多大なり。

然れども生者必滅は有為の業報、報命茲に尽き、去る八月十五日往生の素懷を遂げ畢ぬ。

されば、わが元祖大師法然上人は宣給わく、西方浄土を願うは、十惡五逆の衆生の生るる故なり、諸仏のなかに阿弥陀仏に帰依したてまつるは、三念五念に至るまで、自ら來迎し給う故なり、諸行のなかに念仏を用うるは、かの仏の本願なる故なりと、その本願に曰く、十方の衆生至心に信樂して我國に生れんと欲して乃至十念せんに、若し生ぜずば正覺をとらじと誓い給へり。

まさに知るべし、本誓の重願空しからず、衆生称念すれば必ず往生することを得。往詣衆邦にあたり偈を以つてせん。

一到弥陀安養国、畢竟逍遙即涅槃

弔電

生糸に生涯を捧げられた石橋治郎八会長は日常の激務のかたわら郷里丹波の開発、繁栄を終生の念願とされ、郷里に数々の事業も起され、郷党の福祉の増進に寄与された功績は数え切れません。郷党のすべての者は今日石橋会長の悲報に接し痛恨おく能わざるものがあります。ここに生前の愛郷の志を追慕し謹んで敬用の誠を捧げます。 関東氷上郷友会

石橋さんの丹波構想

松山 幸逸（春日）

「わしは大隈さんじゃないが、百二十五才ま

で生きるよ」

いつも口ぐせのようにいつておられた石橋さんであった。それほど健康に自信を持たれていた石橋さんであった。その石橋さんが、死を招く大病の前ぶれとも思えぬ風邪がこじれて、とうとう八十三才を一期として逝去の悲報に接した。

わが国生糸界の困難な業界を背負って、東奔西走、自分の健康に対する自信から、他から見れば無理と思えるような激務を続けながら、しかもわが郷党のために二十年近くも熱心に指導されてきた功績はまことに大きなものがある。戦後の混乱期にあつていち早く郷友会の再建の陣頭に立たれ、われわれ世話人を叱咤激励された石橋さんであつただけに、今日の悲報を受けて呆然色を失つたのも当然である。

思えば石橋さんからは、公私に拘らずいろいろな相談を受けた。沼津の土地の開発の問題もあつたし、自伝の編さんのこともあつた。それらの中に石橋さんが最も心残りとしていたのが、わが郷友会の充実とさらに拡大強化したいわゆる丹波地区の経済開発と在京多紀・氷上両地区の郷友の大同団結の問題

であった。

「君は篠山にも知己が多いのだから、橋渡し役になれよ」としばしばすすめられ、一回だか数人の在京経済人との懇談会のようなものを開いたこともあったが、実を結ぶまがに至らず、私にとっては宿題をかかえてウロチヨロシして今日に及んでいるわけで、今更ながら申し訳なきを覚えるのである。

そうした構想は郷土愛に燃える産業人であり、小さい時からさんざん苦勞を重ねて奮闘努力されてきた石橋さんなればこそ考えられる発想であつたろうと思われる。

人生百二十五才説を信じられてゐる石橋さんにしてみれば、まだ三十年くらい生きる計算だつたらうから、この丹波開発構想もこれからのライフワークぐらいの気持で悠々想を練つておられた事と思うと、残念というより哀惜の念一しおのものがある。

私はこれからもせめて石橋さんの抱かれていた発想の一部である丹波人の親睦と友好の実現のために微力を致し、石橋さんのご冥福を祈りたいと願つてゐる。

一葉落ちて丹波の秋を思ふかな 竹水

故石橋会長を憶いて

須原 清(市島)

「港の見える丘公園」でスナップしたのが最後となつた。それは昨年十一月下旬のよく晴れた日の午さがり。外人墓地を、南京街で食事の後シルクセンターで兵庫県観光映画を見、センター内の見學を済ませ散会したのは四時を過ぎていた。お元氣な故会長を中にスナップ撮影したが、シャッターが切れなくて残念だつた事を思い出す。郷土の惜しい人材を失つたものだ。

あれからはや一ヶ年。一句あり。

青き空熟れる故山の柿のしび 松柏

兄佐々井信太郎の生涯

佐々井 一晁

会誌「山ざる」に掲載したいと、小生に下命された。よつて、一筆認めることとした。

もと葛野村、今、水上町の中野部落—中部落と三方部落から、成松へ出る道筋の中ほどに、佐々井家の邸宅があつた。今は、稲田になつてゐる。徳川の末期までは、中部落と三方部落へ入つて行く三角形の地所に大きな屋敷があつた。そこから葛野川の流れる方、竹簀に接して「佐々井家歴代の墓」がある。先祖の墓石には、六代の祖重兵衛と大書されており、元禄十六年とあるから、大石良雄らの忠臣蔵事件の二年後のことだ。それが六代目の祖先ということになつてゐるが、佐々井家は、南朝の忠臣が東丹波から移住して來たという話は聞いている。

父重三郎は、丹波天田郡下夜久野村額田の生れ、塩見文右衛門の次男である。青年の頃漆かきを業として、四国九州までも足をのばしてゐた。佐々井家の婿になつたのも、漆かきに來て宿を頼んだのが縁である。明治の初めのことだ。眼玉の大きい、丸顔の、堂々たる軀軀で、全く武士型の人だつた。身の丈五尺四寸五分以上あつた。

兄は、明治七年五月二十二日に生れた。明治十八年四月、小学校中等科四級の時、それまで通つてゐた森山小学校が廢校になつたの

で、やむなく学校はやめた。今の尋常小学五年生程度だ。翌十九年三月から二十二年五月まで高山寺住職権大僧正・寿一悟師について四書五經の素読をうけた。満十五歳の時のことだ。

その頃、父は、天田郡榎原村に鉱山経営をやっていたが、帳付けをする者がないので、兄を使うことにした。その夏のこと、その地方に猛烈な赤痢病が流行し、兄もやられた。それがひどくなって、ある日、兄の脈は断えた。驚いた父は、夢中になって十一面觀世音菩薩を念じながら、冷水をバケツに幾杯となく頭からぶっつけた。約五分ばかりで脈はかすかに返って来た。とにかく一旦は絶命したのであった。

明治二十六年四月、兄は葛野村役場の書記を拝命、父は、二十七年四月に永眠、その後兄は葛野小学校の教員拝命、二十八年七月尋常小学校正教員試験に合格、三十三年十二月まで葛野小学校に奉職、三十四年四月東京市四谷私立井上小学校長拝命、同時に文部省の夜間中等教員養成所に一年半通学し、明治三十五年十二月、地理科中等教員免許状をうく。三十六年三月、神奈川県立第二(小田原)

中学校教諭を拝命、明治四十一年三月歴史科(日本史、東洋史)中等教員免許状をうけ、大正二年十二月に西洋史料中等教員免許状をうく。大正七年四月依願退職し、同月神奈川県主事を拝命す。大正八年七月から大正十一年五月まで、神奈川県社会課長として勤務。大正十一年三月から昭和四年三月まで、東洋大学教授となる。

また、昭和三年二月から昭和十九年六月まで、神奈川県匡済会(社会事業団体)常務理事として働き、更に昭和三十四年五月まで、同会理事として尽す。

大正十一年二月から昭和二十二年二月まで大日本報徳社副社長として奉職。

昭和二年二月から七年二月までかかつて、二宮尊徳全集(四六倍版一冊千四百頁全三十六巻)校正出版す。

昭和五年五月三日、天皇陛下が大日本報徳社へ行幸の際、御前説明を仰せ付けらる。

昭和六年三月から八年一月までの間に、静岡岡県小笠郡元土方村および周智郡元中村に借財償還仕法を行う。翌七年以降数年間に、三重県多気郡元荻原村、福島県耶麻郡元関柴村、同相馬郡元太田村、神奈川県足柄上郡元

金田村、新潟県西蒲原郡元黒崎村、兵庫県水上郡元葛野村、富山県水見郡元女良村、同東礪波郡元般若村、和歌山県伊都郡元紀見村その他多数町村の借財償還仕法を指導、また富山県射水郡元浅井村、同下新川郡元村椿村の水害復興仕法を指導す。

昭和八年二月から二十三年四月までの間に十八回にわたって生活建直し指導者長期講習会(一ヵ月半から二週間位)を開催した。

昭和十五年五月十四日から六月十八日まで満洲拓殖会社の依頼により満洲国内団体指導に当る。昭和十八年四月二十三日から六月二十三日まで満洲国政府の囑託により指導出張。

昭和十八年八月一日より二十年三月二十日まで、朝鮮総督顧問に就任、農村指導に当る。

「二宮尊徳の体験と思想」という論文によって、昭和三十四年二月二十日、文学博士の学位を受く。時に八十五歳。昭和四十年四月二十九日、勲三等瑞宝章を授けられたが、われわれは、兄が正三位勲一等位の価値ある人と思っていた。昭和四十六年八月九日午前四時半永眠、満九十七歳二ヵ月余であった。正

五位に叙せらる。思えば兄は、着実に一生を築き上げた「報徳」の使徒であった。

佐々井博士の葬儀

二宮尊徳を顕彰する報徳会を主宰されて、九七才の長寿を保たれ、御活躍中の佐々井信太郎博士の葬儀並びに告別式は昭和四十六年八月十三日、横浜の久保山斎場で午前十時より二宮神社宮司が斎主となり、いとも厳肅に神式によってとり行なわれた。

津田神奈川県知事、参議院議長河野謙三氏らの名士、北海道から九州に至る報徳会各地区会長を始め、郷里から水上町長や、在京の郷友有志も参列、故人の大きな功績をしのんで礼拝、冥福を祈った。

足立会長、橋本秘書を慰う

足立三治会長は橋本信幸氏が故石橋会長の下にあつて、多年郷友会の庶務、会計事務の面倒な仕事に骨折つてもらった労を多とする

ため、さる十一月二九日、東京大森の料亭「小町園」に同氏を招待、慰労の宴を催し、長の好意に感激し、郷友会の発展のためには今後も従来同様の協力を惜しまない熱意を示した。伴仲、松山両氏も陪席したが、同氏は会された。

喜寿、耆寿、米寿の先輩たち

十一月の総会通知に対し、ご返事を頂いたたくさんの方のハガキの中に七十才以上の高齢の先輩たちが、以外に多いことはまことに喜びにたえない。

しかも、これら的高齢者の方々が、かくしゃくとして、現職のままご活躍されているお姿に接するとき、われわれ郷党の後輩たち、奮起しなければ相済まない感を深くするものである。これらの方々の中からお名前を挙げると――。

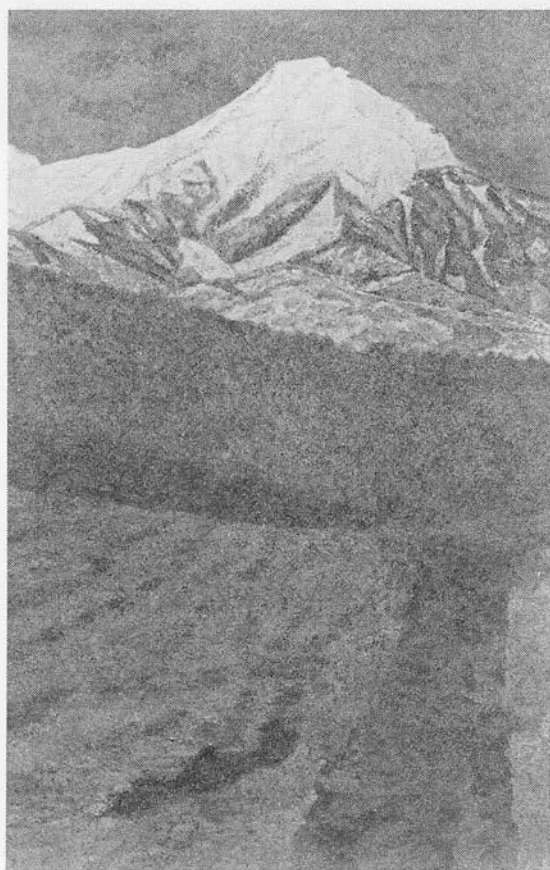
まず筆頭は八九才の中川四郎さん（柏原）、佐々井一晃さん（山南）は米寿を迎えられても元気気で執筆の多忙な毎日にあられること、大阪の上田要さん（春日）八七才が、上田短資の現会長であり、渡辺泰三さん（水上）は八三才で渡辺紙工業の現会長、さらに田誠さん（柏原）八十才で東京ステーションホテルの社長であられること。この外、梅垣作太郎さん（山南）八六才、柴田勝太郎さん（山南）八一才、野村利吉さん（春日）八一才、芦田六之助さん（春日）八二才、小林茂さん（柏原）八一才、実保二さん（柏原）七九才、荻野定一郎さん（春日）七七才、土屋タイさん（福知山）七七才、芦田秀雄さん（七七才）と何れも、現職で活躍されたり、余生を趣味の囲碁や俳句、謡曲、読書などによって激動日本の行方を見守っておられるという。この上とも御健康をお祈りし、お祝い申しあげる次第である。

（M 生）

日展十四回の栄光

常岡画伯の「白い嶺」

郷土の生んだ希才の日本画家常岡幹彦画伯は昭和四六年秋の日展に「白い嶺」と題する百八十号という大作を出展、大いに会場を圧倒し、連続十四回日展入選の栄誉に輝いた。



常岡画伯は、昭和五年柏原町に父文亀画伯（別記参照）の長男として生れ、柏原高校を経て同二八年東京芸大日本画科を卒業、同年早くも「はれ間」を日展に初入選、また院展にも「ふるさとの秋」「山」を出品入賞して、新進日本画家としてデビュー、以来、日展、院展、美術協会展などに毎年出品し、中堅画家として将来を大いに期待されている。

この常岡画伯を後援する後援会もすでに、元文部大臣有田喜一氏を会長とし、郷友有力者が多数入会、強力な支援体制を布いている。何しろ同画伯の作風は、恵まれた色彩感覚を駆使して、特異な造型画境を創造している点で、日本画壇に新風を送っており、日展審査員加藤栄三画伯なども「日本画壇に新しい道を拓く有望な中堅作家」との折り紙をつけているという。

(M生)

個展は大成功

明年へ意気込み

常岡幹彦画伯個展が去る昭和四六年七月京橋中央公論社画廊で開催され、風景や花等の近作二十数点が出品された。あやなす錦秋、雨後の道、湖の清々しい高原、冷たく清冽な冬の山岳風景、スペインやベルシャの壺に花の静物など力作揃いであった。また洋上の、松上のさまざまな富士等もあって色彩感あふれる会場に初日から郷友の面々が続々激励後援に来会し、殆んど作品が買約となり大成功をおさめた。同氏は来年も続いて個展を開く予定とのこと、更に若い力をもって健筆を揮い大成されんことを祈ってやまない。

同好会 ニュース

ゴルフの会報告

伴 伸 信 次

関東氷上郷友会の主旨である会員相互の親睦と友情をよりいっそう深めるために、趣味の同好会をつくっては……との意見が出て趣味のアンケートをとったところ

ゴルフ 二十八名 囲碁 十八名

書 画 十一名 謡曲 五名

その他民謡、俳句、盆栽、写真、茶道、手芸等々の回答を得た。

そこでとりあえず同好の士の多いゴルフ、囲碁の同好会を発足することになり、ゴルフ部会の世話役を仰せつかった。

三月九日に竹村政雄、須原清、前田和市、荻野武氏等で世話人会を催して氷上ゴルフ同好会が発足した。

故石橋会長も大へん乗り気で立派な会長トロフィーを、また西川顧問からもカップを寄贈いただき現在二十九名のメンバーで活発に活動している。

以下に会の記録を掲げ、さらに同好の方々のご参加をお待ちしている。

メンバー(数字は同好会ハンデ)

長富千代一 3 小谷正己24 長沢 康10
藤原三郎26 足立誠一11 荻野 武25 足
立守久15 前田和市28 景山正吾13 伴仲
信次23 谷垣正雄18 土田直吉29 須原清
22 岸田 勇30 竹村政雄25 足立憲信13
山本 忠23 生駒篤郎23 西川政一18 大
橋威彦32 荻野英夫12 有田 毅 山中一
朗25 村岡 卓 田口正男6 柿原武司
足立 治17 小山元昭14 小谷寛治28

コンペ成績次の通り

第一回 (四六年) 四月二二日
藤沢 P、G、C 優勝 伴伸 信次
第二回 六月二四日
読売 G、P、C 優勝 小谷 正己
第三回 九月十七日
八王子 C、C 優勝 長富千代一
第四回 十一月四日
鷹の台 C、C 優勝 長富千代一
第五回 (四十七年) 二月中旬
我孫子 C、C 予定

氷上ゴルフ同好会規約

一、名称 本会は氷上ゴルフ同好会と称す。
二、目的 会員相互の親睦と啓発をはかること。

三、入会 関東氷上郷友会の会員にして、入会の申込をした者。

四、幹事 イ、本会の円滑な運営のために常任幹事を七名置く。内一名は会計担当。

ロ、幹事は会員より選任し任期は毎年三月より一年間とする。

五、行事 ゴルフ会他親睦と啓発に資する行事。

ゴルフ会は原則として毎年三、六、九、十一月を開催月とし、必要に応じ開催月を変更する場合もある。

六、行事運営者 ゴルフ会の場所・日時・会計等一切の世話役は前回の優勝者とブービー者がすること。但し幹事の了解をうけるものとする。

七、費用 年会費は幹事会で定められた会費を徴収し、ブレイ代等は各自の支

払とする。

八、ゴルフ会のハンデいの決定

イ、ハンディキャップは入会時は申告ハンディを適用するが、36までとする。

ロ、更新し優勝者二割、二等一割五分、三等一割何れも四捨五入とし、アンダーパー分だけ更に減ずる。

ハ、初参加のハンディは幹事会の決定とする。上記の者は二回目から正式ハンディとする。

九、カップ

賞品の調達は世話役に一任。

大カップの取り切り戦はもち点数制により行う。(もち点数制は別途決定する)

十、ゴルフ会は原則として二七ホールメタルプレーとする。

十一、優勝及その他 同点順位は年齢によって決定する。

イ、初参加の入賞は認めない(注四位以下とする)

ロ、前回不参加の方は優勝のみ一ランク下がり二位とする。

十二、その他上記以外のとりきめは必要に応じてそのつど幹事会にて決定する。

氷上碁会報告

松山幸逸

碁は第一回は六月十九日午後一時から、赤坂囲碁倶楽部で開いた。案内状は二二名に出したが、いろいろ先約があつてか、参加者は八名だった。それぞれ愛好者揃いであつたため、みんな熱心に闘志を燃やし、楽しい会合となつて大成功であつた。何しろ第一回で相手の棋力がわからないので番狂わせがあつたが、総当たり戦績は次の通り。(段位は本人の申出による)

第一回成績 林谷 集(四段) 五勝一敗 松山幸逸(初段) 六敗 淵上綱蔵(三級) 五勝一敗 渡辺金三(四級) 三勝二敗 足立正(四級) 三勝二敗 前田和市(四級) 一勝一敗 山本忠次(初段) 一勝四敗

第二回八月七日成績

林谷 集(四段) 三勝三敗 荻野 武(三段) 三敗 松山幸逸(初段) 四勝二敗 石井久吉(二級) 四勝一敗 足立 正(四級) 一勝四敗 川畑明光(初段) 四勝二敗

第三回十月九日成績

林谷 集 三勝二敗 淵上綱蔵 一勝三敗 渡辺金三 二勝二敗 足立 正 二勝三敗 川畑明光 三勝二敗 小川晴道 三勝〇敗 松山幸逸 一勝三敗 山本忠次 二勝二敗 なおこの氷上碁会の存在をご存じのない方も多からうが、同好の士はぜひ参加下さるようお願いしている。入会金など一切不要。



昭和46年度会計報告

(昭和45年11月1日～昭和46年10月31日)

収 入			支 出		
費 目	摘 要	金 額	費 目	摘 要	金 額
繰越金	振替貯金 現金	107,097 162,750			
		269,847			
会費収入	44年度通常会費	2,500	総会費用	45 11 29 バス 屋食 通行料等	61,503 90,373
	45 " "	24,000		46 5 16 浜離宮会場費、弁当飲料等	
	46 " "	26,500			
	47 " "	6,000			
	48 " "	3,000			
	49 " "	1,000			
出版収入	会誌山ざる広告料 寄付金 伴仲信次	83,500 3,000	出版費	会誌山ざる2号印刷費 会誌山ざる2号発送費	150,000 24,755
		86,500	弔慰費	丹波新聞社長・伴仲夫人・石橋治郎 入諸氏逝去生花料	14,000
総会収入	45 11 29 会費収入 37名	40,800	通信費等	振替貯金振込手数料	3,975
	46 5 16 会費収入 52名 寄付 藤原岩市	34,800 3,000		総会招集へガキ等 役員会費等 雑費	3,280 4,150 3,600
	収入合計	497,947			15,005
			支出合計		294,133
			繰越金	振替貯金 現金	196,269 7,545
					203,814
	合計	497,947	繰越金	合計	497,947

四六年度会費納入者

(敬称略 十二月十八日付振込分まで)

足立かおる 足立三治 足立誠一 足立正
植木英吉 大西淑恵 荻野 武 木村つた江
小林章乃 鈴木和栄 高見すみゑ 田辺信夫
千葉淳子 樋 玲子 常岡幹彦 野村虎男
野村千里 林田孝子 広瀬靖典 藤原岩市
井田悦子 鵜沢洋子 芦田美代 須原 清
安達陽一 永井輝江 長沢 康 上山 顕
竹林すま子 小林 剛 松山幸逸 前田和市
野村利吉 小寺確郎 植村章子 栗原重次
横山幸三 高見嘉都司 足立 徹 芦田 武
(青垣町収入役) 梅垣作太郎 吉竹貞治 西
垣秀正 小谷正雄 足立石蔵 田辺輝一郎
柿原 清 足立 博 柴田勝太郎 渡辺金三
渡辺幸子 高桑良弥 谷垣正雄 田 誠
荻野定一郎 足立 治 山本清士 小谷正己
安達健一郎 菊池顯三 高見安亮 古藤 一
村上末吉 荻野英夫 坂上勝郎 斎藤俊一
磯畑幸太郎 高見正夫 河津助治 石橋昭彦
伴仲信次 鴻谷喜代治 千種倫幸 小林武治
生駒篤郎 安藤秀夫 矢本博一 土田直一

袴塚 喬 足立玉治 足立 要 近藤敏雄
足立守久 足立 彊 山本 忠 奥井 広

四七年度会費納入者

横山幸三 荻野定一郎 足立 治 小谷正己
村上末吉 河津助治 千種倫幸 小林武治

四八年度会費納入者

横山幸三 荻野定一郎 足立 治 村上末吉
河津助治

寄付金

伴仲信次 三、〇〇〇
足立三治 二〇、〇〇〇

水上郷友会の会費は、年額五〇〇円(学生二〇〇円)と定め、前記会計報告書の通り、主には山ざる誌の出版費、通信費、弔慰費等に充てられています。現状では不足額を一部篤志家の寄付金や広告賛助料などによってようやく運営している次第です。会の発展と充実を期するために、どうか一人でも多くご協力をお願いいたします。(係)

三委員会を設置

第一回役員会開く

新役員会の構成で整備した関東水上郷友会では四六年度十一月十八日午後六時より、九段下の工業技術会館で第一回の役員会を開いた。足立新会長は挨拶の中で『会員の方たちが喜んで参加してもらえよう努力していきたい。その手段として、

一、財務を確立すること

二、事業、企画を充実していくこと

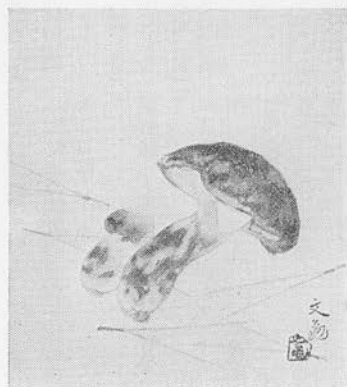
三、会員を拡大強化していくこと

の三つの機関を設けて推進したいと提案、それぞれの委員長に、伴仲、松山、渡辺の各副会長を指名、出席の各理事より意見の開陳があり、さらに「山ざる」第三号の発行を明春一月中に発行すること、発行に伴う広告賛助の具体的方法、振替口座の移設等、なかなか懇談のうちに九時散会。

当夜の出席者左の通り

須原 清・永井常資・植村章子・足立誠一
足立 治・木村つた江・常岡幹彦・足立 正
(以上理事)・芦田秀雄顧問・足立三治会長・
伴仲信次(副会長)・松山幸逸(同)

常岡文亀画伯は表紙に絵を寄せられた常岡画伯は明治三十一年柏原町に生れ、東京美術学校日本画科を卒業、結城素明先生に師事、東京美術学校教授となる。その後文展審査員、大日本美術院同人、日展委嘱等日本画壇の重鎮として今日に及び郷土出身画家の大御所である。帝展に「鶏頭花」及び「棕櫚」を出品、それぞれ特選「カンナ」は政府買上げの榮譽を受けた。さらにシンガポール総領事館をはじめ在外公館用の作品を制作、世界的に知られるところとなった。



☆ ☆ 関 東 氷 上 郷 友 会 の 沿 革 ☆ ☆

本会は明治二十九年（一八八六年）十一月二日、東京神田の料亭において創立の発会式を行ったといわれる。

当時東京帝国大学の学生安藤広太郎（後の農学博士）、同田昌氏（後の太蔵次官）らの奔走によって結成の準備が進められ会長には旧柏原藩主織田信親子爵、副会長に田健次郎男爵（元台湾総督）が就任され会の目的は、東京における郷土出身者の親睦と友情を深めるとともに、郷里氷上郡の開発発展に寄与することにあつた。以来七十余年、幾多の曲折を経ながらも今日まで存続し得たことは、いうまでもなく本会のために献身的に協力された先輩各位の郷土愛のたまものといえよう。これら諸先輩のうちでも故人となつた井上雅二、矢本平蔵、小谷哲、石橋治郎八氏らの名を逸することはできない。

日本が支那事変から太平洋戦争に突入して昭和二十年の敗戦を迎えるまでは時局柄、郷友あい集う機会が漸次少なくなつていったが、戦後の混乱が次第に拾収され、日本の復興と経済の成長、平和な社会秩序の回復に伴つて郷土愛精神も次第によみがえり、他郷にあつて「ふるさと」をおもう情念もまた高まつてきた。この情勢に応じて本会の再建強化に骨折られたのが、石橋治郎八会長を中心とした役員諸氏であつた。

昭和二十八年一月二八日、東京新橋駅樓上の「日本食堂」で戦後第一回の「氷上郷友会」が開催され、百名を超える郷友が喜々として集い、戦中、戦後の飢餓と混乱、生死を生き抜いた郷友たちが、相擁して久闊を叙し、熱っぽい雰囲気であつた。ありし世代の苦闘を語る感激の渦をまき散らしたのであつた。

かくて、わが郷友会は完全に再建の軌道に乗り新しい発展が約束さ

れたのであった。この日の大会こそは本会にとって正に歴史的なものであった。

田健次郎会長（昭和五年没）のあと久しく空席であった会長の椅子は織田信大子爵、安藤広太郎農学博士とひきつがれ、この歴史的な大会において石橋治郎八石橋生糸社長を会長に迎えたのであった。名会長として会長在職十八年の石橋氏の逝去は哀悼措く能わざるものがあるが、本年十一月、足立三治氏を会長に迎え、その他新役員を迎えた本会は、石橋会長時代を経て、新たな発展が期待されている。

（松山記）

関東氷上郷友会々則

（名称）

第一条 本会は関東氷上郷友会と称する。

（目的）

第二条 本会は会員相互の親睦を図り併せて郷土の発展に資することを目的とする。

（会員）

第三条 本会は氷上郡出身者及び縁故者を会員とする。

（役員）

第四条 本会に左の役員をおく。

会長	一名	副会長	若干名
常任理事	若干名	理事	若干名内二名会計担当
監事	二名	顧問	若干名

（役員の任務）

第五条 会長は本会を代表し会務を統轄する。副会長は会長を補佐

し、会長事故あるときは副会長の互選により一名がこれに代る。常任理事及び理事は会務を執行する。監事は会務及び会計を監査する。顧問は会長の諮問に応じ本会の発展を促進する。

（役員選出）

第六条 会長及び役員は総会において選出する。

顧問は理事会の推薦により委嘱する。

（役員任期）

第七条 役員任期は二年とし、重任を妨げない。

（役員報酬）

第八条 本会の役員は総て名誉職とする。

（会議）

第九条 会議は総会と理事会に分ける。

総会は毎年一回、必要に応じ臨時総会を開催する。理事会は会長、副会長、常任理事及び理事を以て構成し、必要に応じ会長が招集して開催する。

（会費）

第十条 本会の会費は年額金五〇〇円（学生は金二〇〇円）とする。別に必要に応じ理事会の決定による額を徴集することができる。

（寄附金）

第十一条 寄附金は理事会の承認により受納する。

（会計報告、会則の改正）

第十二条 本会の会計年度は毎年一月一日より同年十二月三十一日迄とし、会計報告は次年度の総会において行う。本会則の改正は総会の議を経て決定する。

関東氷上郷友会 会員名簿

昭和四十六年十二月現在
アイウエオ順
氏名下の数字は満年齢

お願い▼住所、電話番号、勤務先など変更の場合は必ずご連絡下さい。名簿の正確を期することは、会員各位のご協力以外にございません。どうかお願い申し上げます。

足立明子

〒165 中野区松ヶ丘一―一六 〇三三八〇〇
五四八

足立あつ子

〒280 千葉市稲毛台町八―六 〇四四七二―四
一―三四二五

足立石蔵 63

〒177 練馬区石神井町二―三五―一四 〇九九
六―六七〇五、飛鳥建設 〇二六三―三五一
五(春日多田)

足立一郎

〒180 久留米市八幡町二―八―八 〇四
二四―七―一五三〇四 東久留米新聞社、(柏
原田路)

足立 治 59

〒211 川崎市下小田中四六四 〇四四四―七七
一〇二―一七 セントラル化学 〇四四四―二
六―五五三一(青垣杉谷)

足立かおる

〒351 朝霞市公住一―二〇四 〇四八四―
六一―八三一五(春日黒井)

足立順治 69

〒251 神奈川県藤沢市藤ヶ岡二―二一―六
〇四六六―二二―六一二 趣味詩吟(氷上
幸世)

足立 要 31

〒211 川崎市新城二六八 〇四四四―七六―七
六三〇 つるや洋装店主(青垣奥塩久)

足立 勝美

〒156 世田谷区桜上水三―一―一 〇三三〇二
一七三七一、郵政省、〇五〇四―四三六一(青
垣)

足立 勲平 52

〒251 藤沢市鶴沼藤ヶ谷一―七―四 〇四六
六―二二―六四六一 川崎建設 東京支店
〇五〇六―二八五八(青垣)

足立 定 54

〒190 立川市砂川町二七八六―九 〇四六
〇四二三―二二―二二八八(山南奥)

足立 三治 64

〒211 川崎市今井南町四八〇 〇四四四―七二
二三四〇 つるや産業 〇四四四―七二―六
三七一(青垣遠坂)

足立 士朗 48

〒188 田無市本町六―一六―七 〇六三―六四
一五(市島)

足立 静夫 44

〒182 調布市深大寺町一〇二―九 大阪商船
三井船舶 氷上

足立 誠一 58

〒113 文京区千駄木一―八―三 〇八二三―二
三七八 〇三誠 〇二五五―二二五(青垣佐治)

04-13-11
441

高田 四
11-11-11

足立 正 38	千123 川崎市宮崎四十五 〇四四一八七一九 五一〇 明治生命本社営業センター 〇二一六 一六五七九 (水上御油)
足立 玉治	千111 台東区日本堤一 二八一 〇八七二一 〇五三五 (青垣)
足立 忠三	千462 名古屋市北區城北新町一 一六 〇九八一 二六〇七 人事院中部事務局 〇九六一一六八 三八 (青垣)
足立 楨次 58	千30 大宮市三橋六 四六一三 〇四八六 二四一五七三三 日本製糸協会 〇二八一三 四〇一 (青垣)
足立 徹 59	千150 渋谷区神宮前六 一三五 コープオリンピ ア二二一 〇四〇〇一七九三五 三菱商事(株)鉄 鋼第一部長 〇二一〇一三〇三〇(青垣東芦田)
足立 利多加	千221 横浜市神奈川区大口通り三五 〇四四五 一四二一 四七一八 (青垣神楽)
足立 範雄	千249 逗子市逗子一 一七 〇四六八 一七 一 一四七四八 (青垣)
足立 初枝	千196 昭島市中神一 一三五
足立 博 62	千180 武蔵野市吉祥寺東町二 一三四一二 〇 四二二一二 四八五三 東洋信託銀行 〇二 七二一七三二一 (青垣)
足立 松治	千221 横浜市神奈川区大口通り三五 〇四四五 一四二一 四七〇五 (青垣)

足立 昌彦 54	千280 千葉市稲毛台町八 一六 〇四七二一四 一 一三四二五 川鉄機械工業(株) (春日中河内)
足立 三義 35	千240 横浜市保土ヶ谷区権太坂三九四 一三 本航空 〇二一三 一六二二一 (水上御油)
足立 守久	千221 横浜市神奈川区松見町一 一九一八 〇四四五 一四三二 〇〇三一 装苑つるや 〇 〇四五 一四二一 四七一八 (青垣)
足立 雄彦	千249 逗子市逗子三一四 (青垣)
足立 幸夫 28	千106 港区麻布十番 二 一四矢本方 〇四五 一 一三九三 つるや洋装店 (青垣中佐治)
足立 義雄 27	千105 港区赤坂青山高樹町二 (春日) ユ スキ製薬(株) 〇四四 一三三 一七五八四 (水 上)
阿部 小太郎 49	千176 練馬区北町一 一四四 一 〇九三二 一 三二八〇 小林製薬(株) (水上谷村)
阿部 美江子	千176 練馬区北町一 一四四 一 〇九三二 一 三二八〇 (水上石生)
赤松 靖弘	千400 甲府市古府中町塔岩五五九、千野重雄方 (水上)
赤松 誠司 21	千174 板橋区清水町二六、小宮山方 東洋大学 生
赤松 たつ 79	千153 目黒区中目黒五 一 一五 一 一三 〇七二二 一三七〇四 (春日)

秋元多美子

〒135 江東区猿江一―一〇―二 ㊞六三一―一五七五

秋山一男

〒162 新宿区新小川町一―一三 ㊞二六〇―一九六二 春日建設 ㊞二六四―四〇―一(春日)

秋山米子

〒166 杉並区阿佐ヶ谷北二―二五―二五 ㊞三三九―四一三三(春日)

浅田和雄

〒171 豊島区南長崎六―二五―二 ㊞九五―一九三二三(水上)

旭弘

〒155 世田谷区北沢二―二四―九(春日)

芦田秀雄

〒167 杉並区下井草四―二一―三 ㊞三九〇―二八六六(水上伊佐口)

芦田彊介

〒171 豊島区千早町二―三―六 ㊞九五五―〇五八一(水上)

芦田二郎

〒190 立川市砂川町三三九三―七市住三〇―一 日産自動車 ㊞四二五―六一―一 一一一(水上)

芦田六之助

〒166 杉並区高円寺南三―一九―一 ㊞三二二―七〇六(春日黒井芝町)

芦田敏之

〒112 文京区小日向一―二五―一四(春日)

芦田重秋

〒165 中野区大和町四―四九―一 ㊞三三〇―五五〇七 日本開発銀行 ㊞二七〇―三二二一(市島)

芦田英祥

〒180 武蔵野市中町一―二三―一二 内外交通 ㊞二五六―〇〇〇五(青垣西芦田)

芦田 垣 61

芦田 忠雄

芦田 裕子

芦田 美代

荒木 泰雄

有田 喜一

有田 久代

有田 征郎

有田 毅

安達 恭二

有田 征郎

有田 毅

有田 毅

有田 毅

有田 毅

有田 毅

〒167 杉並区浜田山四―一六―二 ㊞三二二―〇六八八 芦田特許事務所 ㊞五九一―二五二三(青垣西芦田)

〒170 豊島区西巢鴨四―二七五、弥生荘 ㊞九一七―二九〇二 日本醸造工業 ㊞八二二―五二七一(青垣)

〒160 新宿区北新宿三―二七―一七、松永方 ㊞三六八―六八〇〇 法大学生

〒108 港区白金台一―一―二八(青垣)

〒121 足立区上沼田町一―一〇 ㊞八九〇―二二八一(水上)

〒194 町田市森野一―三森野住宅三五四 斎藤會計事務所 ㊞二五三―六四〇四(山南)

〒157 世田谷区成城四―一―一五 ㊞四八三―一二〇九 衆議院 ㊞五八一―四九四三(水上谷村)

〒157 世田谷区成城四―一―一五 ㊞四八三―一二〇九(水上)

〒151 渋谷区幡ヶ谷三―一八、矢崎方(水上)

〒141 品川区東五反田五―六―二三 ㊞四四三―一九七五 ホテルジャパン東急 ㊞五八一―四六六三(水上谷村)

〒154 世田谷区池尻町五一八 ㊞四一―一〇七二三 横浜野沢屋 ㊞〇四五―二六一―二二二一(水上)

安達健一郎	〒188 保谷市中町三一三一三 〇四二四一 六三―三四四六 興国企業 〇九八七―一二 一一(水上)
安達陽一	〒124 葛飾区お花茶屋三一―九一七 〇六〇三 一九一五 渡辺紙工業 〇八八七―六七一 一(水上常業)
安達博子	〒124 葛飾区お花茶屋三一―九一七 〇六〇三 一九一五
安藤英二	〒249 逗子市逗子四―七―四七 〇四六八― 七―一二六二九 日本船舶機関学会 〇五〇二 ―二三七一(柏原)
安藤繁夫	〒157 世田谷区祖師谷一―四四一 〇三〇九― 五七四五 日本学校給食会(柏原)
安藤秀夫	〒114 北区西ヶ原三―二―一二 〇九一〇― 五七五九 日本大学理工学部 〇四七四―七 三―一二二一(柏原石田)
安藤道子	〒176 練馬区小竹町一―五一 〇九五五―〇〇 一四(柏原)
井上和三	〒156 世田谷区船橋町三〇二、鈴木方 協同乳 業世田谷営業所(春日)
井上敏明	〒121 足立区中央町五―二―一二 渡辺紙 工業 〇(市島)
井垣郁子	〒188 東久留米市滝山六―一―八―三〇三 〇四二四―七二―五一七
井阪いさお	〒166 杉並区松ノ木三―二五―一四 〇三一― 一四〇九四(山南北太田)

井田悦子	39 〒120 足立区中川五―一〇―一五 〇六〇五― 五三四〇(市島)
井手梅野	〒190 立川市栄町五―二―一 公住四四一 〇四二五―三五―七〇三〇
井上巖	〒285 佐倉市上志津角栄六三一号 花王石鹼臨 時事務改善部 〇六六三―三三一
井本義一	〒170 豊島区駒込四―四―一 〇九一八―七三 五四 神戸銀行(柏原)
池上碩郎	59 〒176 練馬区桜台五―四五―一三 〇九九一― 六一四九 第一生命住宅(柏原)
池上亘泰	41 〒251 藤沢市藤ヶ岡一―一三、藤沢団地二― 四〇一 〇四六六―二四―一六二三 日本鋼 管鶴見造船所 〇四五一―五一一―二二四一 (氷上石生)
池田種生	74 〒272 市川市東菅野一―七―一三 〇四七 三―三四―〇二八〇 日本百貨店通信編集長 (山南)
生駒篤郎	74 〒188 保谷市東町五―一―一四 〇四二四― 二―一六二六七(柏原)
生田清弘	47 〒157 世田谷区成城一―七―七 〇四一五― 八九三 新明和工業 〇四五―五七一― 一一一(柏原)
生田正輝	〒156 世田谷区船橋町四七 〇四八二―三二三 一 慶応大学法学部教授 〇四五―一五一八― (柏原)

生原 富子
石井 久吉

石倉 軍二

石田 修三

石橋 昭彦

石橋 正康

磯畑 弘太郎

泉 富士乃

泉 幸夫

泉 睿子

稲次 淑子

岩田 やえの

宇野 正浩

千165 中野区丸山町二二二一七(氷上)

千251 藤沢市辻堂一七〇三 〇三六六一五四

清和産業 〇二二二五八四八(柏原)

千110 台東区入谷一四一〇一 〇八七二一六

〇二六(氷上)

千112 文京区千石二四〇二六 〇九四一

五五九〇 昭和郵船 〇二二一八三四一

(美の郡)

千145 大田区田園調布三一九一〇 〇七二

一一二五二七 石橋生絲 〇〇四五一六四一

一七二六一(春日)

千227 横浜市緑区市ケ尾町一一六〇、三菱樹脂

アパートA三〇一(春日)

千270 松戸市小金きよしヶ丘一三二二 〇

四七三二四一六四七九(氷上下新庄)

千155 世田谷区北沢町二一九一

千153 目黒区下目黒五二二一九 〇七二二

六〇三〇 国鉄本社貨物局長(氷上)

千153 目黒区下目黒五二二一九 〇七二二

六〇三〇(柏原)

千113 文京区西片一一三三六、ヴィラロイヤ

ル文京西片七〇二号

千166 杉並区高円寺南二一四一三(氷上)

千338 与野市大戸八六三 〇四八八一三一

五二九七

鶴沢 洋子 40

千115 北区赤羽二二五一一二 〇九〇一一二

八五〇(青垣)

千158 世田谷区東玉川一二一九、小松莊

〇七二九一六九二二 ブラックデッカー(ジャ

パン) インク 〇七〇三六四〇二(氷上本郷)

千659 芦屋市松の内町九一五 〇二二〇八〇

六 上田短資 〇大坂一二〇二一五五五一

(春日棚原)

千124 葛飾区東堀切一一〇都住三〇三 〇六

〇三一五七六五 〇大貴 〇六八一三三五八

(柏原田路)

千221 横浜市神奈川区西寺尾町久保下一二二六

公団一一三〇七 県立高浜高校(柏原)

千221 横浜市神奈川区上反町二一七 〇四

五二二二一一六三二 齒科医自宅開業(春日棚

原)

千272 市川市東菅野三一七二五 〇四七

三三六一六〇二二

千107 港区赤坂八一六三三 〇四〇八一二〇

五一 船員保険会会長 〇四〇七六〇六一

(柏原大新屋)

千167 杉並区下井草四二二八八 〇三九九一

七二二一 井荻駅前郵便局 〇三九〇一九六六

〇(山南)

植木 英吉 62

千167 杉並区下井草四二二八八 〇三九九一

七二二一 井荻駅前郵便局 〇三九〇一九六六

植木 一夫

〒113 文京区白山三―一―一三 〇八二―一八
五七三 植木紙工所(山南)

植木 伍鹿 77

〒166 杉並区永福二―一―一二 〇三三二―一〇
四九一 海洋産業(株) 〇二七―一三一八(山
南和田)

植木 格

〒167 杉並区下井草四―二七―一三 〇三三九
一六三五二 東邦化成産業(株) 〇九五三―〇二
二二(山南)

植木 十和子

〒181 三鷹市下連雀八―五―二五 一四〇三
〇四二二―四六―二四一

植田 勝憲

〒155 世田谷区代沢二―四〇 殖民塾服部礼介
方(氷上)

植田 博三

〒125 葛飾区白馬三―九―一八(氷上)

植田 博 44

〒221 横浜市神奈川区白幡西町一〇〇―一八
〇四五―四〇―一八六六一 額田製作所東
京営業所長 〇七四 二―一四六四(市島)

植村 章子 69

〒180 武蔵野市吉祥寺本町三―一七―一〇
〇四二二―二二―七七九七(春日船城)

白井 猛夫

〒272 市川市真間四―二―一〇、くるみ荘 東
京医歯大医学部(青垣)

梅垣 作太郎 86

〒158 世田谷区奥沢五―三八―二一 〇七二一
―二二九四(山南大河)

梅垣 宏

〒335 戸田市戸田一七二三 マルサン火の見下
店 〇四八四―三二―五九二八(柏原)

梅津 昭治

〒121 足立区梅島二―二五―二〇 渡辺紙工業
(株)(柏原)

江間 時彦

〒162 新宿区市ヶ谷砂土原町三―一七―一砂土
原住宅二―一〇三 〇二六九―三六四〇 厚生
大臣官房企画室

恵本 みよし 45

〒31 和光市南二―一―三二 〇二二 〇四八
四―六三―八一五五(山南前川)

遠藤 妙子

〒155 世田谷区代田六―一―一一、芳月寮
〇四六八―二〇三八 日本大学文学部物理教
室 〇三〇二―一八―三一(青垣)

小川 晴通

〒107 港区赤坂三―一六―一八 〇五八三―一五
五三 杏林堂主人(山南)

小田 明子

〒194 町田市本町田藤の台二―二七―四〇二
〇四二七―二七―八七七六

小田 武次郎 52

〒177 練馬区関町六―四二九 〇九二九―二四
一二(春日)

小田 利江 46

〒177 練馬区関町六―四二九 〇九二九―二四
一二(柏原)

小田 晋作

〒191 日野市高幡台団地七三―五二四 日経記
者、整理部 〇二七〇―〇二五―一

小野 智恵子 58

〒150 渋谷区東四―六―一三 〇四〇〇―一三
九六(氷上大崎)

織田 信和

〒180 武蔵野市境四―五―九 〇四二二―一五
一―七七三一 モービル石油(株)(柏原)

大石勝郎

〒152 目黒区鷹地二一九―一二 〇七三(柏原) 〇七三―一

大木正徳

〒156 世田谷区経堂一―三七―一〇経堂セントラルマンション 〇四二九―九九六〇 日立製作所(山南)

大木道則 43

〒177 練馬区東大泉九五―一 〇九二四―〇二四四 東大理学部 〇八二二―二二一、内線三四四六(山南谷川)

大木俊治

〒120 足立区梅田七―六―一七 〇八八七―五三七三(氷上本郷)

大沢まつ子

〒166 杉並区高円寺二―一三一(山南)

太田与市

〒173 板橋区大山町三三 〇九五六―五四一六 宣伝情報社(柏原)

大地富美子

〒192 八王子市片倉町二三―一

大槻嘉孝

〒248 鎌倉市二階堂九三―一(市島)

大西俊治

〒350 川越市の場二〇六五 〇四九二―三三一 九二八一 埼玉日産モーター(熊谷支店(春日))

大西淑恵 71

〒158 世田谷区等々力六―二九―一四 〇七〇三―七七二八(青垣)

大野渥子

〒182 調布市小島町四七一 〇四二四―八二一 七九三三

大安 徹 21

〒158 世田谷区上野毛四―一―一四 神奈川大 学生

岡崎正一 21

〒222 横浜市港北区太尾町五四六、三上 方 工大 学生

岡田一雄 68

〒176 練馬区春日町四―二三―七 〇九九〇―一三四七(山南畑内)

岡本憲太郎

〒125 葛飾区白鳥三―九―一八 〇六〇一―一六六五 岡本化学工業 〇六一七―三三七七(氷上)

岡本庄太郎 36

〒370 高崎市飯塚町飯玉一五五二―二 〇〇二七三―二三―三五七九 インマヌエル高崎キリスト教会(氷上成松)

冲 誼

〒108 港区三田二―二―一一 〇四五二―一九九一

荻野演一

〒166 杉並区阿佐ヶ谷北四―一四―二 〇三三九―六九三二(青垣)

荻野一雄

〒145 大田区上池台三―二六―二 〇七二九―四九六七(市島)

荻野完二 67

〒158 世田谷区奥沢五―三九―一七 〇七二一―七四八一(山南谷川)

荻野公一郎

〒121 足立区谷在家二九三、都住二―二〇三 渡辺紙工業 〇(春日)

荻野謙一

〒110 台東区上野桜木二―二三―四 〇八二一―一五二七〇 東峰商事 〇(春日)

荻野定一郎 77

〒248 鎌倉市御成町一七―一四 〇四六七―二二―六七四二 荻野法律事務所 〇二二―一七〇六一(春日多田)

荻野 武	41	〒235 横浜市磯子区汐見台三―四―三―二三九 ☎〇四五―七六一―九〇五〇 中央建材工業㈱ ☎五七一―五二二九 (市島)
荻野 哲男		〒170 豊島区巢鴨三―九一六、田口方 (柏原)
荻野 英夫	69	〒106 港区元麻布二―七―一三 ☎四七三―三 九〇一 中央建材工業㈱ (市島)
荻野 雄一郎		〒180 武蔵野市吉祥寺東町三―二―一三、小 西方 (水上)
荻野 行雄		〒157 世田谷区砧八―八―一七 ☎四一六―二 八五七 (春日)
奥井 広		〒116 荒川区南千住一―二九一六 ☎八〇七― 七五四七 つるや洋装店主 (青垣)
奥谷 松治		〒155 世田谷区代田三―五―一六 ☎四一四 九五六二 (市島)
音無 太美子	57	〒135 江東区木場六―六―一六 ☎六四七―五 三九一 (春日 黒井芝町)
柿原 清	69	〒133 江戸川区西小岩一―二〇―一八 ☎六五 七―七三六〇 (資)ニシキ社長 ☎六五七―〇九 一〇 (春日 中山)
柿原 武司	37	〒101 千代田区三崎町三―一〇―一九 ☎二六 五―七九二一 東京スード ☎八三四―三二九 一 (春日)
柿原 庸	65	〒180 武蔵野市吉祥寺南町四―二四―一 ☎〇 四二二―四三―六〇〇七 日本補聴器㈱ ☎二 九四―〇四三一 (春日 中山)

景山 正吾	70	〒156 世田谷区桜一―二〇―一七 ☎四二九―五 八八〇 (佐用郡)
梶浦 浩二郎		〒160 新宿区柏木三―三一八 ☎三六八―八〇 〇七 江の島鎌倉観光㈱ ☎〇四六六―二三― 二三二一 (揖保郡)
片瀬 勝義		〒121 足立区梅田町一五九五 (柏原)
片山 日幹		〒417 富士市北山、本門寺 (春日)
片山 則昭	21	〒156 世田谷区桜町一―二〇―一三 ☎四二九 一六九三一 明大学生
片山 尚夫		〒151 渋谷区代々木上原二三〇〇、千代田生命 上原寮 (柏原)
片山 邦夫		〒165 中野区鷺之宮一―一七 (春日)
勝野 きしの	53	〒271 松戸市松戸一―六九、中山荘 新宿区薬 王寺保育園 (春日 春日部)
門山 静子		〒340 草加市松原団地D六二―三〇六 ☎〇四 八九―二三―九八三九 (水上)
金子 一二		〒121 足立区梅島二―二五―二一 ☎八八七― 七七四六 渡辺紙工業㈱ (水上)
亀井 純一郎		〒116 新宿区中落合二―二四―一〇 (柏原)
川勝 小里	67	〒184 小金井市本町一―六―一五 ☎〇四二三 一八一―二〇五七 (水上 本郷)
河津 助治		〒162 新宿区矢来町二 ㈱近藤写真製版所 ☎二六〇―六二八―一 (春日)
河津 省三		〒165 中野区松ヶ丘二―三一―一〇、平野方 東 京信用保証協会 (春日)

管野きぬゑ 62

〒158 世田谷区奥沢四―一二一六 〇七二〇―
六八九一(柏原)

木村つた江 55

〒182 調布市東つじヶ丘二―三九一五 〇三
〇〇―六八九五 榑木村商事役員(市島岸戸)

木呂子 恵美子

〒180-04 清瀬市中清戸二―七五〇―八 〇
四二四―九一―三〇三三

喜田 泰い

〒180-04 清瀬市下清戸四―六四〇、大林組社
宅 〇四二四―九一―〇一九三

菊池 頭三 78

〒176 練馬区小竹町一―五七 〇九五五―四五
五三 菊池齒科医院(青垣佐治)

菊池 武利

〒164 中野区中野五―五六―四 〇三八七―〇
四五二(春日)

菊地 洋子 38

〒114 北区西ヶ原一―二二―四 〇九一五―〇
一〇七 武蔵野音楽大学 〇九九二―一二二一
(氷上幸世)

菊沢 貞雄

〒155 世田谷区代沢二―一五二(柏原)

岸田 勇 29

〒343 越ヶ谷市大成町一―二三三八―六 〇
四八九―八二―一八六六 市田榑浜町支店

岸本 昌子

〒121 足立区花畑町花畑団地一七―一〇二
〇八八四―七〇二四

木下 五郎 71

〒158 世田谷区玉川四―九一八 〇七〇〇―三
二四五(氷上石生)

木下 年子

〒180 武蔵野市八幡町四―二四一八(岐阜)

久下 梅次

〒154 世田谷区弦巻町三―一二―一四 〇四二
九―四二九―六三六八 青果商(氷上)

久保田 千代

〒153 目黒区祐天寺一―三三二二 〇七一三一
〇六八六(新潟)

栗原 重次 61

〒336 浦和市岸町二―一三一三 〇四八八
一二―一六一二 島田特殊硝子 〇四三三
一六一五一(春日国領)

小谷 寛治 60

〒157 世田谷区南島山六―六一八 〇三〇〇―
〇四五七 横浜日野自動車 〇四五一八五
一―〇九九三(柏原古市場)

小谷 信造

〒173 板橋区仲宿三九 〇九六一―八一五九
日成商会 〇五六七―一九四一(柏原)

小谷 正雄

〒143 大田区山王三―三六―四 〇七七一―六
六五二(柏原)

小谷 正巳 53

〒249 逗子市久木一―八一八 〇四六八―
七一―六四四九 つるや洋装店 〇四六八―
七一―三〇七五

小寺 確郎 60

〒191 日野市南平一五三三―二〇八 〇四二
五―九一―二九六〇 日本水産 〇二七九―
三三三一(青垣)

小寺 辰二 82

〒125 葛飾区金町一―二二―二 〇六〇七―
〇四五〇(青垣東芦田)

小寺 忠夫

〒125 葛飾区金町一―二二―二 〇六〇七―
〇四五〇(青垣東芦田)

小中 克巳 44

〒310 水戸市東原三―三―四一、茨城大宿舍五
〇一 〇二九二―三―三三五七五 茨城大学
〇二九二―二―四一七一(市島)

小林 武治	千180 武蔵野市境南町一—三〇 国学院大学 (春日)
小林 剛	千180 武蔵野市境五—一七—二四 〇四二二 一五二—四四二六 中央畜産会 〇五八—一六 六七六 (市島)
小林 茂	千142 品川区豊町四—八—二 〇七八二—六九 九三 ヤマト電気 〇四三四—三八四八 (柏原 北町)
小林 章乃	千142 品川区豊町四—八—二 〇七八二—六九 九三 (水上谷村)
古藤 一	千238 横須賀市衣笠栄町一—七〇 〇〇四六八 一五一—二二〇五 装苑つるや店主 (青垣)
古林 すみ乃	千167 杉並区宮前四—九—二三 〇三三三—九 二四七 (市島竹田)
小山 元和	千135 江東区木場六—八—一 〇〇ささ元社長 (多紀郡)
小山 靖憲	千115 北区志茂三—二—二三、高野方 東京 教育大学 (水上)
近藤 林蔵	千162 新宿区矢来町一 〇二六八—六四五— 〇近藤写真製版所 〇二六〇—六二八—(春日)
近藤 敏雄	千133 江戸川区南小岩八—一—一六 〇六五七 一六四七九 つるや洋装店主 (柏原田路)
鴻谷 喜代治	千166 杉並区阿佐ヶ谷北三—三—二三 〇三三三 八一—三三二六 〇日本ビセルバ 〇二五六—一六 五五一 (青垣佐治中町)

佐々井 一晁	千186 国立市国立中三—三—一七 (水上中野)
佐々井 典比古	千222 横浜市港北区太尾町三六九 〇〇四五— 四五—一〇一六六 神奈川県副知事 (水上)
佐々木 盛雄	千161 新宿区中井二—一—一八 〇九五一— 二八五八 佐々木盛雄事務所 〇二〇九—三二 七六 (春日)
佐々木 守夫	千356 入間郡福岡町大原二—四—三四 〇東京 トヨタ自動車 (青垣)
斎藤 俊一	千173 板橋区板橋四—一—一三 〇九六三— 〇〇八〇 トキワ手芸 〇八六六—三三二〇 (山南青田)
斎藤 文子	千112 文京区大塚三—一—一、大塚女子アパ ー (柏原)
斎藤 美寿子	千187 小平市津田一五二六 〇〇四二三—四一 一九六五
酒井 重男	千352 新座市西堀字本多一—〇七—二一 〇〇 四八四—七八—二四八九 オルガノ 〇研究開発 部 〇八二—一五一—一 (柏原)
酒井 明朗	千176 練馬区豊玉中二—二、中村静香方 (山南)
坂上 勝朗	千165 中野区白鷺三—五—一 〇三三九—〇八 二七 ダイレクトメールサービス 〇二九三 一二九六一 (水上)
笹倉 強	千352 新座市片山四九四二 〇〇四八四—七七 一五六四〇 城北学園 〇九五六一—三一五七 (西脇)

笹倉郁子

〒352 新座市片山四九四二 ㊟〇四八四一七七
—五六四〇

笹倉良正

〒254 平塚市大島一二六六 東洋ゴム厚木工場
(山南)

沢田みさを

〒176 練馬区中村北一一一七 ㊟九九〇一七四
八三

志村勝郎

〒945-03 柏崎市松波四一七一八 ㊟〇二五
七二一一六一八 農林省家畜衛生試験場北
陸支場(柏原)

塩見つるゑ

〒167 杉並区西荻南三一六一七 ㊟三三四一
〇四三二(市島徳尾)

実保二

〒145 大田区北嶺町一四一一二 ㊟七二〇一六
九六二(柏原古市場)

篠原よね子

〒181 三鷹市中原四一八一三二 ㊟〇四二二一
四五一二九〇五(青垣)

柴田勝太郎

〒165 中野区白鷺二一五一〇 ㊟三三八一五
五四〇(朝来郡)

正呂地群治

〒105 港区芝仲門前町二一五 ㊟四三一一二六
五三 参議院自由民主党 ㊟五八一一一五三二
(氷上横田)

白滝勝康

〒354 入間郡富士見町鶴馬九九一 ㊟ニュー
スター ㊟九一五〇一一一(氷上成松)

須原清

〒164 中野区南台五一三〇一六 ㊟三八一一一
六二一 集成建設 ㊟三七九一二二五六(市
島下竹田)

杉岡明美 33

〒153 目黒区中町二一四八一二五 ㊟七一九一
九九六九(氷上南油良)

鈴木和榮 41

〒177 練馬区北大泉町二六〇 ㊟九二四一七五
〇六(柏原石田)

勢川武彦

〒164 中野区東中野二一七一二〇 ㊟三六一
一八七六 大阪商船三井船舶 ㊟(山南)

荘克衛

〒174 板橋区蓮沼五二 ㊟九六六一五八八二
凸版印刷 ㊟(柏原)

園田寛

〒157 世田谷区砧八一二六一二八 ㊟四一六一
一九六一 弁護士(多紀郡)

田口正男

〒170 豊島区北大塚二一五一一四 ㊟九一五一
〇一一 ㊟ニュースター社長(柏原)

田中健治 70

〒166 杉並区成田西三一八一三三 ㊟三九二
三二一九(山南畑内)

田辺輝一郎

〒250 小田原市十字四一〇一六一六 ㊟〇四
六五一二一三九八一 東洋綿花 ㊟五〇一
一八二二(柏原)

田辺善人 60

〒157 世田谷区喜多見町八一六一六 ㊟四一
五一一九七三 東京施工 ㊟四三六一五八五八
(柏原)

田辺信夫 40

〒114 北区岸町二一九一二 ㊟九〇九一五七
五 都立駒込病院 ㊟八二八一六二五、内線
二〇(氷上)

田淵初雄

〒151 渋谷区代々木三一一二、横田きく方(山
南)

田村恒俊	〒187 小平市学園西町一橋寮
田村元子	〒184-04 清瀬市旭ヶ丘二一―二一―一〇八 ☎〇四二四―九一―八〇二六
高井 静	〒167 杉並区荻窪四―一八―七 ☎三九八―六 一七一(永上谷村)
高木 幸子	〒166 杉並区成田東五―二七―四 ☎三九八― 八六二五
高桑良弥	〒166 杉並区阿佐谷北二―二一―二八 ☎三三 八―七三九八 (榑)化学機械研究所 ☎四一四― 四九五三(柏原)
高橋世志子	〒176 練馬区早宮二―二一―一七 ☎九三四―二 六二一
高松常太郎	〒363 桶川市東二―八―一 ☎〇四八七―七三 ―二五三九(春日黒井)
高松 篤夫	〒160 新宿区四谷四―二三、四谷御苑マンス ン六〇六 ☎三五四―〇一九八 鶴書房 ☎二 六五―四七八四(市島)
高見孝男	〒662 西宮市大市二―四―二 ☎〇七九八―五 一―四一四七(春日)
高見正夫	〒166 杉並区高円寺南三―二五―一〇 ☎三一 二―六九一〇 日本空港ビルディング(榑) ☎七 四一―五一―一(春日)
高見嘉都司	〒173 板橋区熊野町四―〇―一 ☎九五六―〇 六〇〇 (産婦人科)自宅開業(市島)
高見 幸男	〒176 練馬区北町一―四三四 ☎九三三―六七 三一(市島)

高見すみゑ	〒115 北区赤羽西三―二三―一二 ☎九〇〇― 三八五六(市島前山)
高見孝男	〒121 足立区竹の塚七―三都住二―一〇三 渡 辺紙工業(榑)(市島)
高見 巻男	〒121 足立区古千谷五―一―二九 渡辺紙工業 (榑)(市島)
高見 安亮	〒177 練馬区石神井町八―五六―一 ☎九九七 ―〇六一三 (榑)忠勇 ☎九二二―〇六八九(春 日棚原)
高柳 弘	〒271 松戸市常盤平団地一―三九―一〇四 佐 々木硝子横川工場(静岡市)
竹内恵美子	〒160 新宿区戸塚三一―
武田 辰雄	〒102 千代田区平河町一―五 全国器械玉糸工 業組合内 ☎二六二―〇九六六(青垣)
竹林すま子	〒152 目黒区碑文谷四―一六―一二 ☎七一二 ―五七〇〇(春日国領)
竹村 政雄	〒170 豊島区北大塚一―三三―三二 ☎九一七 ―五七四〇 十字屋ストア(青垣)
谷 達雄	〒176 練馬区桜台六―二九―二一 ☎九九一― 六四五二 農林省食糧研究所 ☎六四五―九九 一一(柏原)
谷 垣 正雄	〒167 杉並区高井戸西一―二四―一七 ☎三三 三一―六六〇 水沢工務店 ☎六四一―七一 一(柏原大新屋)

谷垣 博

〒188 田無市西原町四一七一九 〇四二四一
六一三〇一一 日本技術開発 〇二〇二一

五二二七 (柏原)

谷垣 尚

〒150 渋谷区神宮前四一八一一七 新日本製
鉄(株)(柏原)

谷垣 正

〒167 杉並区上高井戸三一九九〇 (水上)
〒166 杉並区高井戸西一一二四一一七 〇三三
三一六一六〇

谷川 隆治

〒276 八千代市大字米本二二一九一一七 渡
辺紙工業(株)(水上)

千種 倫幸

〒336 浦和市太田窪三一二二二四 〇四八八
一八二一九七三三 長谷川工務店 〇四六三一
五四五一 (山南)

千葉 淳子 39

〒174 板橋区赤塚二一九一五 〇九三〇一六
四一九 (山南谷川)

塚口 稔 73

〒167 杉並区荻窪二一一一九 〇三九一一四
八八六 水上油利)

塚口 一

〒167 杉並区荻窪二一一一九 〇三九一一四
八八六 河合楽器製作所東京支店 (水上油利)

塚本 良子

〒157 世田谷区給田町五六九 (山南)

土田 直吉

〒141 品川区荏原三一一一二一 〇七八一一一
九一一 つるや洋装店主 (青垣)

萬川てる代 49

〒271 松戸市中矢切五一二 〇四七二一六二
一六五二九 (市島竹田)

樋 玲子 39

〒336 浦和市高砂三一七一五 〇四八八
六一一八七五三 (春日大路)

恒浩 登志子

〒354 入間市富士見町鶴馬三五六七 〇四九
二一五一一一三四七

土屋 タイ 77

〒177 練馬区東大泉二五七 〇九二二一八六八
〇 (福知山)

常岡 文亀 72

〒190 立川市柴崎三一二二三 〇四二五
二五一一三四六七 日本画家 (柏原)

常岡 幹彦 41

〒190 立川市柴崎三一二二三 〇四二五
二五一一三四六七 日本画家 (柏原)

常岡 昭 54

〒154 世田谷区野沢二一三四一九 〇四一一
一三〇六 日本銅管病院 〇四四一三三一五
五九一 (柏原)

角田 弘子

〒271 松戸市八ヶ崎六八四一一五 〇四七三
一四一一六五二三

田 誠 80

〒151 渋谷区上原三一三三八 〇四六七一四
三八六 東京ステーションホテル社長 〇二三
一一二五一 (柏原)

田 浩 58

〒151 渋谷区代々木五一一二四一一 〇四六六
〇六四一 金商又一 〇六六八一一五二一一
(柏原)

田 季晴 60

〒664 伊丹市主基町五五二二三 〇七二七
七二一一四一六 三和金属工業(株) 〇大阪五三
一一六三三一

田 健 一	千156 世田谷区松原町四—九—三二—一四七 四 文部省体育局(柏原)
東 後 一 美	千156 世田谷区赤堤二—三五—一三 〇三二— 一八五〇(加西郡)
東 郷 茂	千173 板橋区双葉町一九—一四 〇九六一— 二六三 〇新潮社
土 井 崇 司	千273 船橋市習志野台三—一—五—二〇四 渡辺紙工業 〇八六一—二三三—(山南)
土 肥 多 香 子	千145 大田区久が原三—八—二 〇七五二— 六三〇(多可郡)
徳 舛 絃 逸	千280 千葉市升天町四—三—二六 市田 〇 〇六六三—一四一—(氷上)
富 岡 貫 一	千164 山野区上高田—一三六—一二 〇三八六 一五六〇七(山南谷川)
永 井 常 資	千194-01 町田市鶴川四—二五—六 〇四二 七—三五—三七六一 渡辺紙工業 〇八六一 一—三三一(柏原下小倉)
永 井 清 司	千248 鎌倉市佐助一—一—一九 〇四六七 一—二—五二五九(山南)
永 井 輝 江	千166 杉並区松ノ木二—一〇—一二 〇三二二 一—二六七五(市島吉見上田)
中 井 薫 子	千274 東葛飾郡鎌ヶ谷町初富九二八
中 居 篤 子	千113 文京区駒込上富士前町一—(山南)
長 尾 清 三 郎	千157 世田谷区砧六—二六—五 〇四一五—三 七七三 日本調度機械 〇(氷上)

長 尾 貴 美 代	千157 世田谷区砧六—二六—五(氷上)
中 川 四 朗	千152 目黒区八雲一—八—二一 〇七一八— 九六七(柏原)
長 沢 康	千184 小金井市中町四—一六—一一 〇四二 三—八一—四八六九 日進産業 〇五四二— 〇三九六(氷上石生)
中 島 惇	千154 世田谷区下馬三—二—一三 〇四二— 四四〇三 汽車製造 〇六四七—一六八五 (青垣)
長 富 千 代 一	千273 船橋市海神四—一八—一〇 〇四七四 一—三—五九五六 〇長富工務店社長(春日)
中 野 正 義	千167 杉並区西荻南二—一—一四 〇三三三 一—六三八七(山南和田)
中 野 周 子	千181 三鷹市下連雀八—一—二六 〇四二二 一—四四—七九六〇
中 村 正 之	千350 川越市仙波町四—一八 渡辺紙工業 〇 (山南)
中 村 道 子	千350 川越市仙波町四—一八—六〇 〇四九 二—二四—三四六二
二 宮 正 巳	千273 船橋市高根台町四—四—二〇 〇四七 四—六六—七六五〇 丸住製紙(大阪市)
西 川 政 一	千167 杉並区善福寺二—三五—一六 〇三九〇 一—三—一六 〇日商岩井会長 〇二七三—五一 一一(市島)

西垣秀正	58	〒182 狛江市和泉二二一 ㊟四八〇―二二五 八 日本ビクター㈱ ㊟二四一―七八一(山南)
西垣秀夫		〒233 横浜市南区六ツ川二―一五一― 防衛庁(山南)
西垣正弘		〒165 中野区野方二―四七―八 ㊟三八六―〇 四九〇(山南)
西垣桂		〒166 杉並区松ノ木三―二五―一四、井阪方 ㊟三一―四〇九四(山南)
西原のゑ		〒113 文京区白山五―二二―一二 ㊟九四一― 五一八七(多可郡)
西山敬次郎		〒152 目黒区八雲三―三一―一一 ㊟七一八― 一四五二 通産大臣官房(市島)
西山貞夫	21	〒252 藤沢市葛蒲沢九一六高橋方(市島喜多)
能勢次郎		〒280 千葉市穴川二―三一―六 ㊟四七二―五 一―三七八二 木徳証券㈱ ㊟六六六―一四八 一(春日)
野村修己		〒344 春日部市武里団地五―二三―二〇三 渡 辺紙工業㈱(春日)
野村虎男	66	〒371 前橋市若宮町二―一五 ㊟〇二七二― 三二―二三七二 関東製酪㈱ ㊟〇二七二―二 四―二一〇五(柏原)
野村利吉	81	〒152 目黒区柿ノ木坂一―二九 ㊟七二七― 五二二七(春日野村)
野村千里	73	〒152 目黒区柿ノ木坂一―二九 ㊟七二七― 五二二七(氷上綱山)

野村嘉男	46	〒276 八千代市八千代台東三―一七―一一 ㊟〇四七四―八二―八八〇八 渡辺紙工業㈱ ㊟八六一―二三三一(春日野村)
長谷川美世子		〒154 世田谷区世田谷三―二二―一五 ㊟四一四 ―九二五六(柏原)
波多洋三	61	〒460 名古屋市中区栄四―一六―一二 大阪電 気暖房㈱名古屋支店内 ㊟〇五二―二五一―七 一五一(春日)
波多道子		〒112 文京区春日二―一七―一二 ㊟八一―二 八六〇
袴塚節子		〒131 墨田区京島三―二〇―一五 ㊟六一三―二 五〇三(青垣)
萩原庸三		〒310 水戸市大工町二―七―一一 ㊟〇二九二 ―二一―三九二七 茨城レントゲン㈱(横須賀)
畑秀夫		〒133 江戸川区南小岩三―九―二一(春日)
畑義則	37	〒101 千代田区神田神保町二―四二 ㊟三二六 ―六〇五一―四 ㈱二支社(春日多利)
畑義博	65	〒184 小金井市東町一―二一―一七 ㊟〇四二三 ―八一―六八六一 八光通商㈱ ㊟四六四―二 七六六(春日多利)
畑光		〒176 練馬区旭町二―二一―四 ㊟九三〇―四 六九三(多紀郡)
畑時美		〒340 南埼玉郡八汐町大曾根一九三一― 渡辺 紙工業㈱(春日)

服部 榮

〒192 八王子市山田町一五三二—三五

林 恭平

〒166 杉並区和田一—五〇—二七 (株)東日本興業 (密)二二—一三九五 (市島)

林 谷 集

〒184 小金井市中町一—八—二二 (密)〇四二三
一—四六二— (氷上石生)

林 田 孝子

〒319-17 北茨城市関本町福田一八七一 (密)〇
二九三四—六—一〇八二 (柏原)

伴 仲 信次

〒162 新宿区細工町二七 (密)二六〇—四七二五
春日建設(株)社長 (密)二六四—四〇一一 (春日多利)

東 田 実

〒153 目黒区下目黒三—七—五 (密)四九二—一七
四八七 (株)精巧写真製版所 (密)五五一—一〇一
八 (山南下瀧)

久 石 幸太郎

〒290 市原市辰巳台東三、日本板硝子社宅B四
三一、日本板硝子千葉工場 (密)〇四七七—六一
一—二二— (柏原屋敷)

久 安 敏夫

〒167 杉並区天沼三—二—三八 (密)三九三—〇
八六三 日本航空電子工業(株) (密)四六三—三一
一一 (柏原)

菱 田 ふみ子

〒152 目黒区自由が丘一—二—一四 (密)七七一
一—〇六八 (氷上)

広 沢 克江

〒160 新宿区戸塚町二—七六 (密)二〇二—三九
四一 東京女子医大看護短期大学 (密)三五七—
四八〇— (柏原)

広瀬 幸太郎

〒182 調布市若葉町一—三八—一四 (密)三〇〇
一—五九三七 (柏原井原)

広瀬 靖典

〒108 港区白金二—四—一、都職員白金住宅五
〇八 (密)四四六—〇四二八 向島保健所 (密)六
一—六一三五 (春日)

婦 木 一男

〒252 藤沢市下土棚四六八 (密)〇四六六—四四
一—〇二三 洋装店経営 (春日)

深尾 須磨子

九七

〒160 新宿区柏木四—九六五 (密)三六一—二五
一三 (春日)

福 井 弘

〒364 北足立郡北本町下石戸上六二九—七
(密)〇四八五—四二—三七二五 (株)三喜 (密)六六
三—九四三一 (氷上)

福 井 勇蔵

〒220 横浜市西区宮崎町五八、東銀社宅四—三
二、斎藤方

藤 井 朝野

〒161 新宿区上落合一—二九、三生マンショ
ン 五〇三 (山南)

藤 尾 ちゑ子

〒165 中野区大和田町四—三〇—九 (密)三三七—
七三〇八 (西脇)

藤 原 岩市

〒180 武蔵野市境南町三—二—一一 (密)〇四
二—三一—七四〇九 東京都防衛協会 (密)二
六八—三七八八 (多可郡)

藤 原 三郎

〒213 川崎市宮崎一〇三八—一、宮前平ドエリ
ング二〇六 (密)〇四四—八六—二〇六八 有田
喜一事務所 (密)五八一—四九四三 (氷上)

藤原 信男 73

〒155 世田谷区代田六―二三―二 ㊞四六八―
〇九五九(加東郡)

藤原 弘行

〒103 中央区日本橋通二―四 ㊞二七一一七
八五 藤原帯地店(山南)

藤田 正雄

〒214 川崎市三田一―一五―七五〇六 日本
育英会 ㊞二六九―四二六―(多可郡)

藤田 千治 35

〒063 札幌市北二―一条東二〇、元町団地二六―
九 ㊞〇二―七八―一四四八四 オリエンタル
コンクリート㈱ ㊞〇二―二四―一五六二五
(市島)

藤田 操子

〒157 世田谷区祖師谷二―九九 ㊞四八二―一
九四七(春日)

藤平 光章

〒125 葛飾区白鳥三―五―一二 ㊞六〇二―〇
二五五(氷上)

藤平 順一郎

〒125 葛飾区白鳥三―五―一二、正利荘 国学
院大学(氷上)

藤平 卓三

〒177 練馬区下石神井一―一四二、木内方(氷
上)

藤本 久一

〒176 練馬区桜台二―二六 ㊞九九一―一三八九
〇(西脇)

洲上 綱蔵

〒182 調布市小島町四〇七 ㊞〇四二四―一八二
―二八九二 住友銀行(市島)

古川 悦子 47

〒180 武蔵野市境五―二〇―二五 ㊞〇四二二
―一五二―一二七二(山南谷川)

細川 宗伸

〒235 横浜南磯子区洋光台二―一―二一四〇四
㊞〇四五―七七二―七六五七(三南下落)

細見 綾子

〒180 武蔵野市境南町五―八―七 ㊞〇四二二
―三二―五九五五 俳誌「風」主宰(青垣)

細見 穆史 40

〒158 世田谷区等々力二―二八―三 ㊞七〇二
―九六二三 日本ペイント㈱東京支店 ㊞四七
四―二二―(青垣)

細見 才次 74

〒194-01 町田市熊谷町七五五 ㊞三五―二〇
七五(春日上三井庄)

堀川 萬次 75

〒104 中央区晴海団地四―五〇五 ㊞五三一―
二五二一 天下無敵の性豪(粕原上中町)

直川 薫子

〒107 港区赤坂青山町五―五 ㊞四〇八―四
〇八六(山南)

前田 和市

〒182 狛江市和泉一三〇〇 ㊞四八九―八二三
八 永愛友商事㈱ ㊞五八五―〇七四〇(山南)

前田 照美

〒182 狛江市和泉一三〇〇 ㊞四八九―八二三
八

前田 貞夫

〒176 練馬区豊玉北一―一、守矢方 洲上法
律事務所 ㊞二〇二―五五五五(山南)

増田 憲夫

〒157 世田谷区烏山町八六七 府中市立第三中
学校(氷上)

松田 トシ

〒188 田無市芝久保町三―二六―一四 ㊞〇四
二四―六一―五七〇〇

松本源吉 72

〒166 杉並区高円寺南三―三四―二 ㊞三一四
―一八八二 台湾協会理事 ㊞二〇〇―八一
六(粕原)

松本金吉 64	〒192-02 南多摩郡多摩町連光寺二二一七 ☎〇四二三―七四―三六八八 ㈱三立 ☎〇六―四四三―四六四八(柏原)
松本一也	〒198 世田谷区上用賀四―三六―C四〇― ☎四二九―九九四四 農林省(柏原)
松本雅子	〒291 伊勢原市高森一八―二九〇 ☎〇四六三―九四―三六三五
松山幸逸 70	〒171 豊島区西池袋四―八―八 ☎九七一―五七四三 東京協栄社 ☎五八二―七三五―、内線五一九二(春日東中)
松山岩雄	〒143 大田区入新井二―一〇五(春日)
松山康裕 21	〒164 中野区中野一―五二―五、野尻方 ☎三七―一七七― 学習院大学生(春日町東中)
三浦成夫 51	〒164 中野区中野一―四―一四 ☎三六一―四五〇九 十条製紙㈱ ☎二一―七三一―(春日多利)
三浦 巖	〒156 世田谷区大原一―二八―七 ☎四六六一―三八二六 画家(春日)
三浦 せつ	〒244 横浜市戸塚区汲沢町一九七七 ☎〇四五―八八一―六〇六一
三崎 復造	〒198 世田谷区玉川上野毛町二八五 ☎七〇―一―二三三〇(柏原)
三宅 博	〒145 大田区南久ヶ原二―三一―一四、桜荘 ☎七五八―二六三八 スズヤ洋装生地店 ☎七三一―四七九八(春日棚原)

三宅良夫	〒145 大田区田園調布南二―九(春日棚原)
光山秀子 66	〒113 文京区本郷四―二―五 ☎八一―一―四五九(氷上石生)
宮 和子	〒145 大田区上池上町二三一(青垣)
宮城 あい	〒221 横浜市新奈川区六角橋二―七―八 ☎〇四五一―四八一―七六〇九(山南)
務川貴世子	〒176 練馬区中村町二―二五 ☎九九一―六八二八(氷上)
村岡 卓 50	〒184 小金井市緑町五―一三一―二 ☎〇四二―三一八―一三九八九 ㈱千代田組 ☎五〇三一―八二―一(山南)
村上 栄宏	〒246 横浜市瀬谷区阿久和町四四六阿久和団地四三四(山南)
村上 未吉	〒164 中野区東中野一―二―五 ☎三六九―一八三四 ㈱桂工務店社長 ☎三七―一七七三〇〇(春日)
村上 大憲	〒143 大田区池上七―二二―一〇 ☎七五一―二〇三五 曹禅寺住職(氷上)
村上 豊	〒144 大田区蒲田五―一八一― ☎七三二―四七九八 ㈱スズヤ洋装生地店主(青垣)
最上 次郎 65	〒182 調布市西つつじヶ丘二―二五―九 ☎三〇〇―五八二二 沖電機工業㈱ ☎五〇―一―三二二(美の郡)
百木 正孝 46	〒166 杉並区堀ノ内一―八―三一 一〇〇八 ☎三一―一〇四〇三 安宅産業㈱ ☎二一―七―二六五〇(市島上牧)

森田節子

〒275 習志野市津田沼二―一三八 〇四七四
七五―六四〇九

森田まさ子

53

〒166 杉並区高円寺南三―一四―一六 〇三一
一〇三三七(水上成松)

八尾昌昭

〒152 目黒区洗足二―六―一〇 〇七二二―一
九九五 東京工業大学大学院(水上)

矢本博一

〒106 港区麻布十番二―四(柏原)

保井寿恵子

〒167 杉並区高井戸東二―一〇―一五 〇三三
三一八七〇五

安田 功

〒154 世田谷区世田谷四―二―一八 丸三証券
〇二七二―五二二一(春日)

安間喜代子

〒158 世田谷区奥沢六―二九―一六 〇七〇二―
七〇四〇(柏原)

柳田保子

〒130 墨田区東駒形三―一六―一〇、太田方
〇六二二―三九九一 〇太田機械製作所(春日)

山岸 享

〒182 調布市小島町四〇七、淵上方(市島)

山口 隆

〒177 練馬区下石神井二―二四 〇九九七―一
八七一 〇平凡社 〇二六二―一九八一(春日)

山口邦江

〒113 文京区駒込上富士前七三 明治乳業販売
店(春日)

山下易子

58

〒156 世田谷区大原一―一八―一九 〇四六八―
〇六六六(水上成松)

山中一朗

〒141 品川区豊町二―二―一〇 〇七八一―四
〇一七 タイガー計算器 〇五三五―四八四
八(青垣)

山中大学

〒144 大田区萩中三―四―一 荏原インフィル
コ(山南)

山中秀雄

〒211 川崎市北加瀬二七四 つるや産業 〇
〇四四―七二―六三七一(青垣)

山本清士

47

〒158 世田谷区深沢六―一五―一五 〇七〇二―
一四〇〇八 〇白樺 〇七〇〇―三二二一(春
日小多利)

山本徳治

72

〒355 藤市南町二―三―一〇 〇四八四―
四一―二七二三(柏原)

山本 忠

〒233 横浜市南区大久保町三〇九―八 〇四
五―八四二―一八六〇九 つるや洋装店主 〇
四五―八四二―七三四〇(青垣)

依田信彦

〒155 世田谷区代田四―八―二二 〇二二―
四四一(市島)

余田八郎

〒251 藤沢市辻堂新町二―二―一三 木村化
工機 〇東京支店 〇三二二―一〇六三一(市島)

余田喜重

〒181 三鷹市新川四―二―一二 〇四二二―
一四四―四一五六 柳町研究所 〇七四一九
二九一(市島)

余田貞雄

48

〒558 大阪市住吉区帝塚山東三―三四 〇六七
三―七九九八 丹但人社(市島久良部)

余田汎子

54

〒107 港区南青山二―一三―一三 〇四〇二―
一二七〇(春日国領)

横山幸三

63

〒133 江戸川区中央二―三四―六 〇六五五―
三九九一 横山産業 〇(青垣佐治)

横山	祝	〒133 江戸川区南小岩七―三三―三 〇六五七 ―六〇六六(青垣佐治)
横田	悟	〒280 千葉市村田町八三―二二―一(山南)
横田	洋子	〒280 千葉市千城西一―三九―一四(山南)
横田	悟	〒280 千葉市千城西一―三九―一四(山南)
吉住	重造	〒213 川崎市宮崎八三一 〇〇四四―八六―三 六二一 〇〇ノールスター 〇二五三―三四九 三(春日)
吉住	政子	〒218 川崎市宮崎八三一 〇〇四四―八六―三 六二一(春日)
吉田	明生	〒140 品川区南品川二―一六 〇四七二―一八 二〇四 明友産業 〇(市島)
吉竹	貞治	〒121 足立区竹の塚四―三―二七―二〇四 〇八八四―〇六八五(柏原下小倉)
吉竹	きぬ	〒121 足立区竹の塚四―三―二七―二〇四 〇八八四―〇六八五
渡辺	泰三	〒669 兵庫県氷上郡氷上町朝坂
渡辺	金三	〒176 練馬区桜台二―一九 〇九九一―〇五三 五 渡辺紙工業 〇社長 〇八六一―二三三一 (氷上朝坂)
渡辺	幸子	〒176 練馬区桜台二―一九 〇九九一―〇五三 五(氷上朝坂)
渡辺	勉	〒180 武蔵野市吉祥寺東町二―三五―一八 〇四二二―二二―四九一一(氷上朝坂)
渡辺	久子	〒180 武蔵野市吉祥寺東町二―三五―一八 〇四二二―二二―四九一一(氷上朝坂)

渡辺	隆男	43	〒167 杉並区宮前四―九―二九 〇三三四―一八 三八一 〇二女社社長 〇二六三―一六〇五一 四(氷上朝坂)
渡辺	貴美子	39	〒167 杉並区宮前四―九―二九 〇三三四―一八 三八一(山南下滝)
渡辺	圭造	37	〒192 八王子市富士見町三―一四 〇〇四二六 ―四二―四八七四 〇〇パール洋菓子店社長 〇〇四二五―八一―〇八二四(氷上朝坂)
渡辺	功	31	〒145 大田区田園調布二―三―一五 比谷方 〇七二二―二四七五 トムソンCSF 〇二六 四―六三四一―八(氷上朝坂)

祝 第 3 号刊行

石橋三木株式会社

社長 石橋昭彦

本 社 横浜市中区山下町 1 番地 電 (045) 641-7161~ 9
支 店 神戸市生田区京町 79 番地 電 (078) 32-1484~ 6
工 場 沼津市高島町 6 丁目 電 (0559) 21-1484~ 6
千葉県我孫子市本町 電 (0471) 82-1351~ 3
静岡市曲金町 2 丁目 電 (0542) 85-2670
営業所 東京都中央区日本橋江戸橋 電 (03) 273-3866~ 9
前橋・相模原

桂建築綜合研究所

ビル建築の設計・監理
事務所建築・賃貸ビル・商業ビル・都
市再開発にともなう新築ビル・アパー
ト・マンション・住宅…等の新築ビル
経済性を尊重した優美な設計

株式会社 桂 工 務 店

店舗の内装設計・施工
住宅の新築・改造・増設施工・都市美
観工事にともなう街路・オーニング・
看板・電飾看板等の設計・施工
システム化された近代経営

株式会社 商店建築社

商業建築・建築関係図書出版・月刊誌
商店建築発行・名作シリーズ・単行本
写真シリーズ…等多数発行

春日町中山出身 村上末吉

住所 東京都中野区東中野1—2—5 TEL 369—1834

衆議院議員

有田喜一

衆議院第一議員会館

電話(五二)五一二(代) 内線三六二番

直通(五八二) 四九四三番

東京都世田谷区成城四ノ一ノ一五

電話(四八三) 一二〇九番

兵庫県氷上郡氷上町谷村

電話〇七九五八(二) 〇〇〇八番

日本バレーボール協会会長
アジアバレーボール連盟名誉会長
国際バレーボール連盟副会長
日商岩井株式会社取締役会長

西川政一

東京都杉並区善福寺二ノ三五ノ一六
電話(三九〇) 一三一六番

電子器機部品専門商社

株式会社 三 誠

取締役社長 足 立 誠 一

東京都千代田区外神田 3-2-13

電 話 (255) 1 2 5 1 番 (代表)

綜 合 建 設 業

東京都知事登録第 3 号

春日建設株式会社

代表取締役 伴 仲 信 次
(春日部出身)

東京都千代田区飯田橋 2 丁目 9 番 3 号

電 話 東 京 (264) 4 0 1 1 番 (代表)

株式会社 近藤写真製版所

取締役会長 近 藤 林 蔵

取締役社長 近 藤 勇 夫
(国領出身)

東京都新宿区下宮比町8番地

電 話 (260) 6 2 8 1 番 (代表)

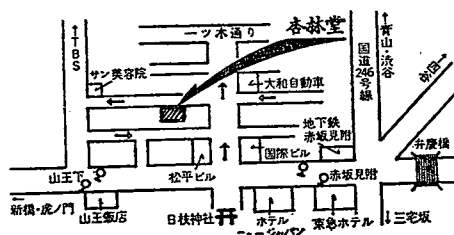
古典医学・脈診研究

鍼専門治療 杏 林 堂

小 川 晴 通

東京都港区赤坂 3—6—18 電話 (583) 1553 番

診療時間の受付は前以て
電話にてお約束します



建築材料販売工事

建設大臣登録(㊄)第6289号

中央建材工業株式会社

取締役会長 荻野英夫

東京営業所長 荻野武

本社 名古屋市千種区若水町3-26

電話 052 (761) 6181 番(代表)

営業所 東京都中央区銀座7丁目10-5

電話 03 (571) 5229 番(代表)

関西風山菜料理

さ さ

小山元和(篠山出身)



東京都中央区銀座6-2-7

あしべビル2階

電話 (571) 4423 番

芦田秀雄

東京都杉並区下井草四丁目二一三
電話(三九〇)二八六六番

三菱商事株式会社

鉄鋼第一部長

取締役 足立徹

〒100 東京都千代田区丸の内二ノ六ノ三
電話(二〇〇)三〇三〇番(代)

梅垣作太郎

東京都世田谷区奥沢五ノ三八ノ二一
電話(七二二)二二九四番

明治生命保険相互会社

本社 東京営業センター

× 足立正

東京都千代田区丸の内二丁目一番一
電話(二一六)内線二八三九番
大代表 三三一一番
直通 六五七九・九五九番

植木紙工所

代表者 植木一夫

東京都文京区白山三丁目一ノ十三
電話(八一)八五七三番

荻野定一郎

事務所 東京都千代田区丸の内二ノ二
(丸ビル六階六二五区)
電話(二二一)七〇六二番
録倉市御成町十七番
自宅 電話〇四六七一二一六七四二番

老人問題研究所

木村 つた江

乞電話

調布市東つつじヶ丘二ノ三九ノ五
電話東京(三〇〇)六八九五番

株式会社つるや洋装店

取締役社長

小谷 正己

逗子市 逗子一ノ六ノ四
電話〇四六八(七)三〇七五・六四四九

日本水産株式会社

専務取締役

小寺 確郎

(自宅)

日野市南平一五三―二〇八
電話〇四二五(九一)二九六〇番

須原 清

東京都中野区南台五の三〇の六
電話(三八一)一六二一番

高見産婦人科

医学博士

高見 嘉都司

東京都板橋区熊野町四〇番地
電話(九五六)〇六〇〇番

日本ホテル株式会社

(東京ステーションホテル経営)

取締役社長

田

誠

東京都千代田区丸の内・東京駅二階
東京ステーションホテル
電話東京(231)代表 二五一一番
三五一一番

日本ビクター株式会社

専務取締役

西垣秀正

東京都中央区日本橋本町四丁目一番地ノ一
電話東京(〇三)(24)七八二一番(大代表)

松山幸逸

連絡先

東京都港区赤坂TBS会館内・協栄社
電話(五八二)七三五一内線五二九二
自宅 東京都豊島区西池袋四ノ八ノ八
電話(九七二)五七七四三番

横山産業株式会社

取締役社長

横山幸三

東京都江戸川区中央二一三四一六
電話(六五四)四三三四六番

東部及東京都防衛協会理事長
社団法人国民外交協会常務理事
日本郷友連盟常務理事

藤原岩市

自 宅 千180 東京都武蔵野市境南町三丁目三十一番二
電話(〇三)(四三)三三〇九番
東京事務所 千107 港区赤坂六丁目二番四号水戸幸ビル3A
内外情勢研究会内 直通(0303)582581
電話(〇三)(五三)三四九三(代表)五番

曹禅寺住職

村上大憲

東京都大田区池上七丁目二番十号
電話〇三三七五一二〇三五番

ノープル印・スター印製造発売元

事務服・制服・作業服・繊維産業資材
園児服・園児用品・金属遊具・形象遊具
ノープルスター株式会社

取締役社長

吉住重造

本社 東京都千代田神田須田町一ノ十一
電話〇三(五三)三四九三(代表)五番

をて 集え 編終

第三号をふり返って見ると、随分苦心したつもりでも、不満だらけなのは知恵の足りないせいと思うしかない▼それでも号を追うごとに充実してきた点は嬉しい傾向であるが、まだまだ寄稿範囲がせまいし、もっともっと多彩な原稿がほしい▼春秋の総会の雰囲気もだんだん盛りあがっている、その雰囲気も本誌にも反映されてきていると信じていたい▼役員も一新されたし、この盛りあがりを大切に育てていけば立派な郷友会に成長するだろうと希望が湧いてくる▼

そのためには「山ざる」を何とか年二回発行あるいは三回、四回と発行回数を増していく必要が出てくると思う、もっともそれには制作費の問題が起きる。▼今のうちに会員の好意にすがって広告を協賛してもらっている程度ではむずかしい。確乎たる財源の問題を考えねばなるまいし、新しい協賛者の開拓も必要になろう▼なお悩みの種であった本誌の印刷については、渡辺金三氏のお口添えを得て、二玄社々長渡辺隆男さん（水上）の絶大な御協力によってスムーズに進行したことを報告し、感謝の意を表したい。この渡辺隆男

氏は若冠二四才で波瀾の激しい出版事業を創めて二十年、堅実な業績をあげておられることを紹介しておく。

（松山）

▼二号の発行の時は、掲載原稿、広告、名簿と、一人で集めて、編集を松山さんにみて頂いたのが、今度は、名簿以外の原稿については全部松山さんに行っていたのでかなり気が楽であった。▼総会の案内を送送して返信のあるのが約半数をちょっと越える程度。ここ数年、あまり変りがない。一〇〇％の返信を望まないまでも、今の程度ではいささか少なすぎはしないか、との思いである。何とか、多くの方々の返信や出席を祈りたい気持ちで一杯である。▼四六年総会で、松柏同窓会の方々の御出席が多く、その一人から松柏同窓会の名簿を送っていただいて、二十数名を名簿に追加することができた。総会案内の返信の中にも数名の新会員紹介があって、総計四三六名である。▼まだまだ多くの同郷者が関東にいられることは明らかなのだが、一人でも多くの方々の名がこの名簿に記録できるように、皆様の御協力をお願いしたい。

（足立）

☆

山ざる 第三号

昭和四七年一月二五日印刷
昭和四七年一月三一日発行

関東氷上郷友会

事務所

東京都千代田区飯田橋二丁目九番三号
春日建設株式会社内

TEL東京〇三（264）四〇一一番（代）
振替貯金番号 東京 一三三三三〇番
印刷所 文栄印刷株式会社

画期的！経費処分の出来る 大型経営者保険誕生

わずかな掛金で **500万円** から **1 億円** まで

日本で始めて **A I U** と **大同生命** が提携

- 非常に安い掛金で、しかも全額経費処分が出来ます。
- 一度の診査で、10年契約。65才まで加入出来ます。
- 掛捨てですから通貨不安、物価変動に強い新時代の保険です。
- 経営者に病気・災害・天災の事故のあった時、企業をがっちり守ります。
- その家族にも高額の退職慰労金が償還されます。
- 役員の任期も考えると、この保険は理想的な保険です。

この企業にとって理想的な経営者保険は法人会の大きな協力によって誕生しました。従って加入資格は法人会の会員に限られております。未加入の企業の方は法人会とこのすばらしい保険に同時にご加入下さい。詳細につきましては、ご連絡を載き次第説明にお伺い致します。

ご説明に伺いました際は粗品を進呈させて頂きます。

一例

35才加入

病気死亡 2,000万円

災害死亡 4,000万円

傷害時

日額補償 1日/2,000円

医療費用 20万円

保険料月額

7,773円

A I U 総合代理店
大同生命代理店

永愛友商事(株)

〒107 東京都港区赤坂 3-1-2 A I U 赤坂ビル

TEL.03 (585) 0740代

GRUE BONNE

高級婦人服製造卸

つるや産業株式会社

取締役社長 足立三治

本社 川崎市新丸子701番地

電話 (044) 72局6371 (代表)

社長室直通 72局3212

東京店 品川区西五反田7-22-17番地

東京卸売りセンター12階

電話 (03) 494局3285～8番

創業 昭和9年

主なる取引先

(株)東急百貨店 (本店, 東横店, 日本橋店)

(株)伊勢丹(本店, 立川店, 八王子店, 吉祥寺店)

(株)大丸(東京店, 町田店, 大阪店, 神戸店, 京都店)

(株)西武百貨店 (本店, 渋谷店)

(株)松屋 (本店, 横浜店)

(株)野沢屋 (株)小美屋 (株)丸井

(株)横浜岡田屋 (株)横浜高島屋

(株)川崎さいかや (株)阪急百貨店